

財團
法人

東洋文庫年報

平成 5 年度

財團法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 平成5年度

目 次

I 図書事業	1
1. 資料の収集	1
2. 資料の整理	2
3. 資料の利用と複写サービス	4
4. 資料の保存整理と複製	6
5. 蔵書点検	7
6. 業務の機械化	8
7. 書庫内資料の移動とスペースの現状	8
II 研究事業	9
1. 調査研究	9
i 文部省科学研究費による調査研究	9
ii 一般調査研究	13
iii 特別調査研究	16
iv その他の研究助成金による事業	17
v 研究委員会	22
2. 学術図書出版	23
3. 講演会	25
4. 研究会（東洋文庫談話会）	27
5. 研究者養成	27
6. 学術情報提供	27

i	研究者の交流および便宜供与のサービス	27
ii	研究会等への会場提供サービス	32
iii	研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	33
iv	参考情報提供サービス	33
7.	職員の研究業績	34
III	業 務 報 告	71
1.	総務報告	71
2.	人事報告	72
IV	役 職 員 名 簿	74
1.	役 員	74
2.	東洋学連絡委員会委員	76
3.	名誉研究員	76
4.	職 員	77
5.	臨 時 職 員	80
V	財団法人東洋文庫附置	
	ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	81
1.	ユネスコ協力活動	81
2.	学術情報活動	81
3.	重要文献の保存・普及活動	86
4.	研究普及活動	87
5.	業務報告	89
6.	役職員名簿	92

付 表

「財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧」	51～53
「財団法人東洋文庫・外国人研究者受入略表」	54～70

I 図 書 事 業

1. 資料の収集

●資料購入

本年度の資料購入費の支出総額は19,320,574円で、その各部門別の内訳は以下の通りである。

	和漢書	洋書	計	テープ資料	マイクロ・フィルム
一般文献資料	319冊	48冊	367冊	0点	0点
中央アジア特別研究資料	420	306	726	3	0
東アジア	1,085	13	1,098	0	0
西アジア	0	804	804	0	0
東南アジア	0	66	66	0	19
チベット	7	162	169	0	0
近代中国	1,122	43	1,165	0	0
計	2,953	1,442	4,395	3	19

東洋文庫のコレクションの特徴として、中国の地方志の網羅的収集が挙げられる。平成4年より出版が継続している「新編中華人民共和国地方志叢書」を購入している。

●資料交換

本年度の出版物交換の実績は以下の通りである。

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本	1,612冊	683冊	2,295冊	1,960冊	1,051冊	3,011冊
定期刊行物	4,394	1,282	5,676	2,247	1,238	3,485
計	6,006	1,965	7,971	4,207	2,289	6,496

資料室では交換業務の再活性化と交換用資料の有効利用を図るため、平成5年4月から9月にかけて国内外の各機関に対して定期刊行物の交換に関するアンケート

を実施した。実施機関数と回答数は以下の通りである。

	国内機関	海外機関
実施機関数	291機関	436機関
回答機関数	236機関	176機関
回答率	81%	40%

この結果、交換先の住所変更や活動停止の情報が掴め、メイリング・リストの訂正に大いに役立ち、欠号補充の請求などの効果もあった。

海外からの回答のうち、ロシアや東欧等、情報を知りたい国からの返信が少なく、図書館の機能状況が把握できなかった。

最後に、タイトル数による等価交換状況について、以下のような結果を得た。

	国内機関	海外機関
等価交換実施機関	47機関 (20%)	32機関 (18%)
文庫側が少なく送付	13機関 (6%)	11機関 (6%)
文庫側が多く送付	97機関 (41%)	83機関 (47%)
文庫の寄贈のみ	79機関 (33%)	50機関 (29%)

等価交換を実施している機関は国内外とも少ない。しかし、受け取っている出版物の内容には重要なものが多く、また文庫出版物を寄贈することによる宣伝効果もあり、現行の交換を当面継続することにした。

● 蔵書数

収蔵する蔵書総数は782,898冊で、和漢書449,187冊、洋書311,416冊、複写資料22,295冊である。

2. 資料の整理

● 図 書

本年度の整理冊数は次の通りである。

日本語図書	505冊
中国語図書	1,333冊
朝鮮語図書	128冊

欧米語図書	1,186冊
アラビア語図書	316冊
トルコ語図書	248冊
ペルシャ語図書	552冊

整理された主な図書・資料には次のものがある。

(1) 新編中華人民共和国地方志叢書	197冊
(2) 清代硃卷集成	270冊
(3) 中央アジア、東アジア地域の航空地図	81枚
(4) U.M.I. 製作中国史関係絶版図書の複製版	44冊
(5) インディアナ大学刊ウラルアルタイ叢書	21冊

● 目録の刊行

本年度刊行した冊子目録は以下の通りである。

- (1) 『東洋文庫所蔵漢籍分類目録 子部』
- (2) 『新着図書目録 41』
- (3) 『洋書速報 851号 東洋文庫収集本特集』

また、ベラルデ文庫421冊のカード作成に当たって洋書目録室が技術指導を行った。

● 雑 誌

本年度の受入タイトル数は1,458誌，受入冊数は6,661冊で，うち新規受入誌は138誌である。

	受 贈		寄 贈	
	和漢雑誌	洋雑誌	和漢雑誌	洋雑誌
受 贈	902 冊	275 冊	3,908 冊	1,087 冊
購 入	181	100	1,345	321
小 計	1,083	375	5,253	1,408
計	1,458		6,661	

● 新 聞

35種（中文30種，ハングル1種，洋4種）

雑誌室では図書館間協力の一環として，文庫の重複雑誌31種179冊を国内の2機関に寄贈した。また国立国会図書館，アジア経済研究所，東京大学東洋文化研究所，

東京外国語大学と協力して、南アジアに関する欧文、和文、その他の諸言語の逐次刊行物の総合目録を編纂中である。

本年度の外注製本は、雑誌・新聞合わせて1,176冊であった。

3. 資料の利用と複写サービス

● 閲覧サービス

本年度の閲覧証の交付は445名で、その内容は教職員74名（外国人25名）、研究機関の関係者24名（外国人14名）、大学院生96名、大学生221名、その他30名であった。本年度の閲覧は開館日221日、利用者数は4,070人、利用資料数は66,213点で、その詳細は下記の通りであった。

月	開館日数		閲覧者数		日平均	昨年同月との比 (△印は減)
	日	累計	日	累計		
平成5年						
4	20	20	242	242	12強	△12
5	17	37	269	511	16弱	△13
6	20	57	298	809	15弱	△33
7	21	78	361	1,170	17強	△19
8	22	100	463	1,633	21強	35
9	10	110	250	1,883	25	△58
10	19	129	494	2,377	26	26
11	18	147	477	2,854	27弱	63
12	17	164	398	3,252	23強	54
平成6年						
1	18	182	249	3,501	14弱	△13
2	18	200	265	3,766	14強	16
3	21	221	304	4,070	14強	△6
計	221	(221)	4,070	(4,070)		14

	和 書		漢 書		洋 書		合 計		日平均	昨年同月との比 (△印は減)
	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数		
平成5年 4	190	324	453	2,764	178	338	821	3,426	172弱	1,343
5	176	259	469	2,641	184	374	829	3,274	193弱	△138
6	165	309	510	3,085	263	529	938	3,923	196強	273
7	273	745	640	3,762	244	521	1,157	5,028	239強	850
8	366	656	1,056	6,476	333	608	1,755	7,740	351強	1,623
9	220	495	623	4,467	133	690	976	5,653	565強	1,889
10	444	545	870	5,655	330	865	1,644	7,065	372弱	999
11	347	615	906	7,044	268	594	1,521	8,253	459弱	3,127
12	366	742	894	4,319	320	534	1,580	5,595	329強	1,4538
平成6年 1	260	513	780	5,317	127	239	1,167	6,069	337強	3,199
2	232	430	705	4,091	195	361	1,132	4,882	271強	1,841
3	196	399	686	4,552	225	255	1,107	5,306	253弱	781
計	3,235	6,032	8,592	54,173	2,800	6,008	14,627	66,213		17,240

● 複写 サービス

今年度の写真撮影の受付件数は667件で、撮影駒数は66,820駒であった。そのうちプリントで提供したものは58,529件、ポジフィルムで提供したものは18,000駒であった。電子複写の受付件数は865件で、枚数は77,047枚であった。

● レファレンス

本年度の受付件数は、目録室、閲覧室合わせて652件であった。

● 資料の貸出

資料の貸出は、博物館、美術館等の展示会と、近代中国研究委員会収集資料の一部に限っている。

本年度の博物館、美術館等の展示会への貸出は9件42点で、詳細は下記の通りであった。

展覧会への資料の貸出一覧

	展覧会名	主催者	展示期間	開催場所	主な資料名と数量
1	菱川師宣 名作展	菱川師宣 記念館	平成5.6.4 —6.24	菱川師宣 記念館	「酒吞童子の 図」他2点
2	三百年祭記念 ——西鶴展	サントリー 美術館	平成5.8.31 —10.3	サントリー 美術館	西鶴彼岸櫻 他6点
3	同	大阪市立 博物館	平成5.10.16 —11.25	大阪市立 博物館	同上
4	河口慧海	堺市博物館	平成5.10.2 —11.7	堺市博物館	「妙法白蓮華 経」他1点
5	横浜と上海 ——二つの 開港都市の 近代	横浜市・ 上海市	平成5.10.30 —6.2.6	横浜開港資料 館・上海市 檔案館	「新民叢報」 他4点
6	鯨・勇魚・く じら——ク ジラをめぐ る民俗文化 史	四日市市立 博物館	平成5.11.2 —12.12	四日市市立 博物館	「鯨記」
7	博覧都市—— 江戸東京	東京都江戸東 京博物館	平成5.11.3 —12.12	東京都江戸東 京博物館	「観物画譜」
8	世界の中の ニッポン ——書物が 語る日本像	国立国会 図書館	平成5.11.24 —12.10	国立国会 図書館	「日本国考略」 他5点
9	三百年記念浮 世絵誕生・ 菱川師宣	サントリー 美術館	平成6.2.15 —3.21	サントリー 美術館	「浮世続」他9 点

(なお、展示は会期中の2週間のみ行われた。)

また、近代中国研究委員会収集資料の貸出は延べ647人で、1,738冊であった。

4. 資料の保存整理と複製

本年度も原資料の保存整理と、劣化資料のマイクロフィルム化など他の媒体への変換を行った。

作業項目と内容は下記の通りである。

- (1) エッチング、古地図類

- 清掃581点, クリーニング581点, フォルダー作製468枚, 台紙付け51枚,
裏打ち7枚, 補修4枚, ラッパー作製6箱, 帙作製1帙
- (2) 貴重書(洋書)
貴重書のうち85冊の清掃, クリーニング, オイリング及びラッパーの作製
- (3) 漢籍地方志
裏打ち1,179枚, 補修848枚, 綴じ直し70冊, 帙作製4帙
- (4) 一般洋書
本年度は日本関係のペーパーバックを対象
本製本7冊, 保護製本88冊, 和綴1冊, クリーニング96冊, 帙作製3帙
- (5) 岩崎文庫の清掃, クリーニング
378タイトル, 1,999冊
- (6) 板目表紙による雑誌簡易製本
243誌, 322冊
- (7) その他の書庫内資料
近代中国研究委員会, 目録室資料を対象
本製本9冊, 再製本・簡易製本77冊, ラッパー作製31箱, 帙作製17帙,
裏打ち516枚, 補修649枚, 落丁挿入1枚, メトロース塗布132枚
- (8) 劣化資料の撮影
21,989駒(堤氏撮影の準回両部平定得勝図, エッチング, 古地図類52駒
も含む。)
劣化が著しく撮影を予定していた漢籍稀観書を今年度全て終了
劣化の激しい中国語雑誌の撮影に着手
- (9) 活用フィルム作成のためのポジフィルム作成
劣化資料の撮影フィルムを主とし, 97リール
- (10) 複製用と他機関取り寄せフィルムのプリント
34,486枚

5. 蔵書点検

図書館職員及び非常勤職員, 延べ300人を動員して, 9月6日~20日の間, 閲覧業務を停止して資料点検を行った。エッチング, 古地図類, 梅原考古資料の一部を除く書庫内資料の点検をすべて終了した。点検の結果, 前回までの分を含めて不明本499点, 要カード作成・訂正1,367点, ラベル貼付及び番号訂正他314点となった。

また、9月21日～10月21日の期間、不明本の追跡調査、ラベルの訂正等の事後処理を行った。

6. 業務の機械化

資料室では、平成4年度にマッキントッシュ IIxi を導入し、ソフト・ファイルメーカー Pro を使用して業務の機械化を計画し、平成5年度より実行に移した。寄贈・交換による図書受入、発注図書、交換先メイリングの各ファイルを作成し、また図書購入予算管理を行っている。

雑誌室では、NEC の PC-9801FA を導入し、データベースソフト「桐 Ver. 4」を使って、平成5年度より雑誌室業務データの入力を開始した。入力状況としては、タイトル・所蔵番号などの書誌的データが8,018件、領収日・入手経路など事務的データが31,532件入力されている。

7. 書庫内資料の移動とスペースの現状

今年度新たに行った計画的な書庫内資料の移動はエッチング、古地図類、第IIモリソン文庫、ベルシャ語資料、拓本、漢籍の史部・子部関係の一部分、中国語雑誌、大型雑誌・新聞がある。エッチング・地図、拓本以外のものはすべて書庫スペースが不足していることが原因である。中でも雑誌書庫は危機的状況にある。日本語、中国語、朝鮮語雑誌の書庫は平成7年度から、洋雑誌の書庫は平成8年度から収めきれないことが判明した。

Ⅱ 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、文部省国庫補助金事業費による一般・特別の調査研究と、並びにその他の研究助成金などによるものにとわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

総合研究 (A)

【課 題】 「ペルシア語古写本資料精査によるモンゴル帝国の諸王家に関する総合研究」

【期 間】 平成5年度 (3ヶ年継続事業初年度)

【目 的】 ① モンゴル帝国に関するペルシア語史料中にはモンゴル政権内部の者が著わした秀れた同時代史料が数多く存在するが、モンゴル政権の核心部分に関する記事は従来ほとんど看過されてきた。本研究はペルシア語古写本史料を利用し、一見「西アジア」「イスラム」の要素が濃厚なペルシア語史料の表面的字面の奥深くに潜む遊牧国家固有の事象を抉り出し、モンゴル帝国の政権の構造が、匈奴以来一連の遊牧部族連合国家のそれと全く同一のものであることを実証すると共に、ペルシア語史料を典拠とする爾余の遊牧国家史研究に新たな道を開くことを目的とするものである。

② ペルシア語史料の表面的な字面の奥深く潜む遊牧国家固有の事象を抉り出し、モンゴル政権の本質を究明しようとする試みは、従来の欧米及び日本の諸先学の研究を根底から覆えす全くオリジナルな研究である。また、古写本史料中に挿入されているミニアチュール(細密画)と本文の記事とを比較対照して新たな知見を得ようとする試みも世界ではじめてのものである。こうした研究方法により、現在のモンゴル帝国史研究の世界最高水準の成果が期待でき、これを起点とするさらなる進展

が予想される。

③ 本研究の成果は、匈奴、突厥、回鶻等の遊牧国家史研究において秀れた成果を挙げてきた日本学界の水準の高さを世界に問いうる出色の内容となろう。

【事業内容】① モンゴル帝国史に関する様々のペルシア語写本マイクロフィルムを焼き付け、ゼロックス化して考察を加え、従来ほとんど看過されてきた『集史』『部族誌』・「王室世系表」・「后妃表」；『五族譜』『モンゴル系譜』；『高貴系譜』こそがモンゴル遊牧国家の核心を記した重要史料であることを確認した。

② 上述の諸写本史料には筆写年代や筆写地が異なる多くの異本があり、字句や文章の違いは極めて著しく、新たな校訂本作成が急務となった。「王室世系表」、『高貴系譜』の校訂作業を開始した。

③ 定住イラン人が、国家構造・生活様式の全く異なる遊牧モンゴル人について記したペルシア語史料は一見すると「西アジア」、「イスラム」の要素が極めて濃厚だが、ペルシア語の表面的な字面の奥深くに潜む遊牧国家固有の事象を抉り出すことこそが必須の課題であると痛感した。従来普通名詞と見られていたいくつかのペルシア語が実は遊牧国家固有の術語であることをはじめて解明した。

④ 古写本中に挿入されているミニチュール（細密画）と本文の記事を対照することにより、文献のみでは理解できないモンゴル帝国固有の事象を明らかにすることを試みた。世界ではじめてのこの試みは本研究を側面から強力に支えることになると考えられる。

⑤ 本研究により従来の様々の校訂本や研究書のほとんど総てが根底から書き改められることになるはずであるが、その成否はまだまだ大量に存在するペルシア語写本をいかに多くマイクロフィルム化・焼付・ゼロックス化して利用できるかにかかっている。

【研究代表者】 志茂碩敏 研究員

【分担者】 統 轄： 志茂碩敏

西方班： 本田實信（イラン・イル汗国）、小山皓一郎（小アジア・イル汗国）、北川誠一（南ロシア東部・キプチャク汗国）、井谷鋼造（南ロシア西部・キプチャク汗国）

東方班： 加藤和秀（中央アジア・チャガタイ汗国）、杉山正明（モンゴリア・元朝）、松田孝一（中国本土・元朝）

特別研究員奨励（日本学術振興会）

【課 題】 「中世イスラーム社会における聖者崇拜・聖墓参詣に関する歴史学的研究」 [個人研究：大稔哲也]

【期 間】 平成5年度（2ヶ年継続事業最終年度）

【目 的】 本研究は歴史学研究に人類学・民俗学の方法・成果を採り入れ、それによって従来の「社会史研究」を更に一步進めることを目的とする。そのため、当時の中東社会全体を考察する上で不可欠な問題である「聖者崇拜・聖墓参詣」を取り上げ、史料の豊富なエジプトを舞台に探求してゆく。具体的には、聖者崇拜・聖墓参詣慣行の実態、参詣者の世界観・意識の構造、聖者の奇蹟、王朝による統御と民衆の拮抗、墓地区の発展、イスラームの慣行等について検討を加える。また、本テーマは現在にまで継続する問題であるため、フィールド・ワークも行い、その成果を文献研究と総合し、より包括的かつ鮮明な「中世」イスラーム社会像を提示したい。

【研究実績概要】

本年度はまず、「中世イスラーム社会における聖者崇拜・聖墓参詣」の研究課題に沿って、前年度に引き続き、関連資料を東京およびカイロを基点として、蒐集・閲覧していった。特に、東京基点では、本年度は本研究者の所属研究機関である(財)東洋文庫を重点的に調査した。また、昨年12月から本年1月にかけては、カイロを基点として、現地研究機関所蔵の写本・史料を精査した。機関名は昨年度に続いて、エジプト国立図書館（Dār al-Kutab）、アラブ連盟大学写本研究所、及びカイロ大学、カイロ・アメリカン大学、アズハル大学の3大学の付属図書館等である。

そして、これらの史料を分析・整理し、後述のフィールド・ワークの成果と総合した上で発表したのが、論文「十二～十五世紀エジプトにおける死者の街——その消長と機能の諸相——」（『東洋学報』第75巻第3・4号、1994年3月、161～202頁），“The Manners, Customs, And Mentality of Pilgrims To The Egyptian City of The Dead : 1100-1500 A. D.”（ORIENT vol. 29, 1993, pp. 19-44）である。中でも、前者においては、カイロのいわゆる「死者の街」の発展・荒廃の歴史、死者の街がエジプト社会において果たした多様な機能を追い、遊興・居住・避難・墓地運営・経済回復・統御・舞台性等の諸相について、世界的にも初め

て、明らかにしたのである。

第二に、既に触れたように、申請テーマをめぐるフィールド・ワークをカイロ・死者の街及び、オールド・カイロにおいて、昨年12月から本年1月にかけて継続調査した。スライドなど画像資料も多く蒐集し、現地スタッフの協力を得てその分析・整理作業を進めていった。これによって前出論文の執筆も可能となったのであり、今後、随時フィールド・ワークの成果自体も個別に発表してゆく予定である。これらの蒐集・分析作業、フィールド・ワークの結果などを通じて、イスラーム及び中東世界における「聖者崇拜・聖墓参詣」がイスラームの浸透・拡大の次元において決定的とも言える重要な役割を果たしていたことを検証できたのである。

【課 題】 「朝鮮李朝後期在地両班の旌表運動と国家」 [個人研究：山内民博]

【期 間】 平成5年度（2ヶ年継続事業初年度）

【目 的】 朝鮮の前近代、特に李朝時代において大きな役割を果たした在地の両班層に関する研究の一環として旌表の問題を扱う。李朝後期、在地両班は国家による旌表を求め、しばしば組織的な請願運動を行っていた。各種古文書、金石文等の史料を検討することによって、道德規範をめぐる在地社会での両班の影響、彼らの横のネットワーク、国家との関係等を明らかにしていきたい。

【研究実績概要】

朝鮮李朝後期における在地両班（士族）の旌表運動を国家との関連の下に検討するという研究の初年度として、このテーマに関連する図書・資料の収集・整理をおこない、研究論文として発表するために下記の準備を進めた。

- ① 文献目録の作成。研究に関連する文献・編纂資料・古文書等の目録を作成した。
- ② ①に基づいて図書・資料の調査・収集をおこなった。
 - Ⓐ 李朝各王の実録等、研究に関連する図書・公刊資料を購入し、東洋文庫など複数の図書館で資料を閲覧・複写した。
 - Ⓑ 平成5年9月3日～9月11日の期間、韓国において資料の調査・収集および聞き取り調査をおこなった。この作業は主に韓国全羅道南原でおこない、南原の郷校・書院・文化院等をたずね、古文書を

閲覧・撮影するとともに、関係者から聞き取り調査を実施した。また、ソウル大学図書館奎章閣、韓国国立中央図書館等でも資料を閲覧した。

以上に基づき、調査・収集した資料を分類・整理し、当該テーマでの研究論文の執筆を進め、来年度には雑誌論文として投稿する予定である。（なお、山内民博氏は、日本学術振興会特別研究員を今年度1ヶ年間にて九州大学文学部助手に就職のため資格を辞退するに伴い、本研究奨励費事業も1ヶ年間で終了となった。）

ii 一般調査研究

本年度は、特に、明代史研究委員会、近代中国研究委員会を中心に調査研究を行った。（研究課題の後に付された●印は、文部省国庫補助金事業費使用担当として、また◆印は、東洋文庫の学術情報提供費により主に重点的に行った事業を表わす。）

東亜考古学研究委員会

【資料の整理・出版】『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録Ⅲ—日本之部・中国之部—』の作成。●

古代史研究委員会

【資料の整理・研究】① 中国都市研究会の開催。（前年度の継続）
② 東洋文庫所蔵中国画像名、造像名、墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献及びそれらの研究成果の公開、および情報の提供。
③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（目録補遺）の補充。（以上、前年度の継続）
④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究・出版】① 『宋史選挙志（二）（三）』研究、訳注の作成。

- ② 『宋史食貨志訳註（二）』の刊行。●
- ③ 『宋史食貨志（三）（四）（五）』研究，訳註の作成。
- ④ 『宋史要輯稿』食貨之部の要項（職官，地名，一般）及び語彙索引の作成。（前年度の継続）

明代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『万曆野獲編』（元明史料筆記叢刊之一）を主として，明代社会経済に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）
- ② 『千頃堂書目索引』の作成。●（なお，文部省国庫補助金事業「一般調査研究」費から，②の事業遂行のため資料8冊を購入した。）

清代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵満洲檔の整理・研究。
- ② 『天聰・崇徳年間の満文檔冊』の講読研究会の開催。（隔週，研究会の開催）
- （以上，前年度の継続）

近代中国研究委員会*

- 【資料の整理・研究】 ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。

- ② 戦前期日本の中国調査資料の研究。

研究会の開催

- 11月20日(土) 三谷 孝 「戦前日本の中国秘密結社についての調査」
- 内山 雅生 「アメリカにおける〈中国研究の新たな潮流〉と戦前期中国実態調査資料」

- ③ 日中現代史研究会の開催

- 6月11日(金) 西条 正 「ゾルゲと中国」
- 8月20日(金) 長井 暁 「毛沢東をめぐる関係者のインタビューと若干の新資料」
- 10月15日(金) 瀧下 彩子 「南京日本研究会の活動に関して」
- 1月21日(金) 村田 忠禧 「1936年の中共の統一戦線工作に関する新資料（毛・周・彭名による宋哲元宛書簡）の紹介」
- 3月4日(金) 中村 義 「エプスタイン氏と黄乃氏に会って」

- ④ 『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録——欧文』の編集。●

日本研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題（Ⅱ）』の作成。（前

年度の継続)

- ② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

- ② 漢字の朝鮮字音の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・整理・研究】 ① 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。

- ② 『東洋文庫所蔵アラビア語・トルコ語文献目録(補遺)』の作成。^{*}

③ イスラム社会の構造の研究

- ④ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。(以上、前年度の継続)

5月8日(木) シンポジウム 「イスラームにおける地域意識」(参加者：高野太輔，三沢伸生，菅原純，佐原徹也，山口昭彦，後藤裕加子)

6月12日(土) 黒岩 高 「18世紀中国西北部のイスラム聖者をめぐる社会集団形成」

7月10日(土) 今松 泰 「19世紀後半のオスマン朝におけるベクタシ教団——イスハク・エフェンディのベクタシ教団論駁の書について——」

11月20日(土) 岩崎 葉子 「イラン繊維産業——研究への足掛かり——」

12月18日(土) シンポジウム 「イスラームにおける地域意識(2)」(参加者：堀井聡江，山中由里子，仁子寿晴)

2月19日(土) 村田 靖子 「アンダルスにおけるムフタシブとスーク」

3月19日(土) 後藤 裕加子 「13・14世紀イランにおけるフォーク・イスラムの抬頭——3つの地方政権の考察から——」

- ⑤ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

⑥ 隊商貿易史の研究。

- ⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会^{*}

【資料の収集・整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。

- ② チベット学に関する研究会の開催。(以上、前年度の継続)

南方史研究委員会

【資料の収集・整理・研究】 ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・研究。

② ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。

③ 辻文庫目録（3）及び萩原文庫目録の Index の作成。（以上、前年度の継続）

（なお、研究委員会名に*印の付した委員会は、「iii 特別調査研究」の事業を別途に行っている。）

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目 的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（ゲールク派・デプン寺ゴマン学堂長 Kenpo of Gomang Datsang College）Tempa Gyaltzen 氏の協力の下に下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として、各文献の奥書きを収集し解説、分析を進めた。
- ② 現代チベット語について口語資料を収集し、記述的研究を進めた。
- ③ トゥカン『一切宗義』『ゲールク派』の章の邦訳・訳注を準備した。
- ④ サキヤ・パンディタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。
- ⑤ 『スタイン目録』注記篇の編集を進めた。
- ⑥ 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol. 4 の調査・編集作業を進めた。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	7冊	162冊

3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット論理学研究』第6巻 B5判 1冊 (刊行済)
- ② 『トゥカン一切宗義校訂テキスト・索引』 B5判 1冊 (刊行済)
- ③ 『チベット特別調査研究年次報告』 A5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)

【目 的】 近・現代中国研究資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究資料の書誌的研究

【事業内容】

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書	マイクロ・フィルム (新聞)
数 量	1,122冊	43冊	49リール

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』第16巻 A5判 1冊 (刊行済)

iv その他の研究助成金による事業

三菱財団人文科学研究助成金特別事業

【課 題】 宋史食貨志の総合的研究 (宋代史研究委員会)

【期 間】 平成3年10月～平成6年9月 (3ヶ年間)

【目 的】 宋史食貨志にかぎらず、歴代の正史食貨志は、国家財政をいかに運用するか、という観点より纏められたものであるから、それによって国民経済の実態を掴むことはできない。したがって、従来の中国経済史研究は、ともすると食貨志の活用を怠るところがあった。しかしながら、国家財政が国民経済に与える影響は軽視できないものがあり、それを理解するためには、国家の理財観、具体的な財政政策を的確に把握しておく

ことが、まず求められる。宋史食貨志は、その要請に応えてくれる最良の書といえよう。日本においては嘗て、その翻訳が二三試みられ、最近中国において、歴代食貨志注釈の一部として宋史食貨志も数種類刊行されている。しかし我々の目指すものは、本文の一条ごとに徹底的に検討し、その詳細さでは類書の水準をはるかに超えようというものである。代表および研究協力者の所属した中国歴代食貨志研究会は、昭和17年に『史記平準書・貨殖列伝訳註、漢書食貨志訳註』、昭和23年に『旧唐書食貨志・旧五代史食貨志訳註』、更に昭和32年には『明史食貨志訳註』を、陸続刊行してきた。宋史食貨志については、昭和35年にその第一冊を刊行したが、諸般の事情により、ついに途絶えたまま今日に至ったのである。

しかし代表研究者を始めとする我々の経済史研究は継続されており、ここに一定の成果を見たのは、宋史食貨志研究を再開し、所期の目的を達成するとともに、宋代財政運営の在り方を再検討しようとするものである。歴代食貨志のうち最大の分量を誇る、本書の訳註を完成させ、宋代財政の全体像を浮き彫りにすることができるならば、前後の王朝のそれと比較研究することにより、中国史上の国家財政および万般の経済諸事象を通観することが可能となり、中国史研究への寄与は多大であると確信するものである。

【事業内容】(1) 研究実績概要：

宋史食貨志上巻4「屯田」・「常平義倉」、巻5「役法(上)」、巻6「役法(下)」・「振恤」以下、食貨志下巻1～8まで、代表及び共同研究者が分担し、各自訳註稿を作成し、絶えず相互に点検を進めた。

初年(平成3年)度作成した、「役法(上・下)」及び下巻6「茶」の訳註稿について、本年度に原稿全部を複写の上、関係資料を再調査し、字句の点検に当たった。点検終了次第、順次パソコンに入力し、特に「役法(上・下)」については、入力をほぼ完了し、現在校正中である。

また「屯田」・「常平義倉」・「振恤」の各訳註稿の作成も完了しつつあり、一部はパソコンに入力した。

更に我々は、食貨志の基本的資料である、『宋会要輯稿』食貨部一般語彙索引の作成に着手した。我々は既に、『宋会要輯稿食貨索引 人名・書名篇』及び『宋会要輯稿食貨索引 年月日・詔勅篇』を刊行しているが、膨大な分量を誇る一般語彙の索引を作成するには到らなかった。今回、一般語彙の調査なくして食貨志研究はありえないことを痛感し、そ

の索引作成に着手した。

共同研究者藤井宏は、台湾高尾図書館に出張し、塩法資料の調査にあたった。

(2) 研究成果と将来計画：

訳註原稿は、1ヶ年内の完成をめざしているが、当面、上記「屯田」・「常平義倉」、「役法（上）・（下）」、「振恤」のパソコン入力を完了させ、『宋会要輯稿』食貨部一般語彙索引稿の作成をめざすこととしたい。

(未完)

【代表者】 中嶋 敏 研究員

【分担者】 柳田節子、千葉巽、斯波義信、渡辺紘良の各研究員
及び藤井宏元北海道大学教授

【課 題】 「中東イスラム世界における政治権力と宗教：総合研究」（中央アジア・イスラム研究委員会）

【期 間】 平成4年10月～平成7年9月（3ヶ年間）

【目 的】 この研究は、中東イスラム世界の内部構造を歴史的なパースペクティブのもとで総合的に検討しようとする試みである。日本における中東イスラム史研究は近年急速に進展しつつあるが、今後はより一層機能的な共同研究が必要となるであろう。本研究では、これまで東洋文庫中央アジア・イスラム研究室が主催してきた「イスラム国家論研究会」における研究成果をふまえ、同研究室の研究員が中心となって新しい共同研究を展開することになる。われわれは研究にあたって、「権力構造の特質」、「都市からの展望」、「イスラムと近代」という3つのサブテーマを設定したが、これは、第一に、共通テーマに対して政治・経済史、社会史、そして思想史という3つの異なった方法論でせまること、第二に、各サブテーマについて異なった時代と地域（アラブ・イラン・トルコ）の事例を相互に比較検討することを意図したからである。本研究は、このような作業をとおして、われわれの世界史認識や異文化理解の深化に寄与するのみならず、「イスラム原理主義」の台頭や民族紛争の激化など、現在の中東問題を的確に理解するための視座を見いだすことを目的としている。

【事業内容】(1) 研究実績概要：

① 共同研究

小松久男、永田雄三（共同研究者）は、日本国際問題研究所主催の研究会「イスラム復興主義運動の諸組織と実態」に定期的に参加して討議に参加したほか、それぞれ「中央アジアの変動とイスラム復興主義」（小松、1993年1月29日）、「トルコにおけるイスラム復興主義運動の系譜」（永田、同日）と題する研究報告を行った。これは、サブテーマの3に属する研究である。

佐藤次高、清水宏祐、八尾師誠、三浦徹（以上、共同研究者）は、イスラム史をとおして広く見られる都市の仁俠集団に関する共同研究を続けてきたが、今年度をもってようやくその成果を公刊する用意を整えることができた。なお、この研究は、仁俠集団に着目することによって、イスラム史における政治権力と都市社会との相互関係、ならびに都市社会の内部構造を明らかにする試みであり、われわれの設定したサブテーマの1と2を結合した研究といえる。

三浦徹、小松久男は、それぞれアラブ地域および中央アジアのイスラム都市に関する研究史を検討した旧稿（羽田正・三浦徹共編『イスラム都市研究：歴史と展望』東京大学出版会、1991年所収）を増補改訂した英語版を準備しつつある（1994年にイギリスで出版予定）。これは、サブテーマの2に関わる基礎研究の一つである。

以上の他、共同研究者はイラン研究会（大分、1993年4月2～4日）、日本中東学会大会（神戸、1993年5月15・16日）、国際シンポジウム「16世紀のイランと中央アジア」（京都、1993年8月30日）などに参加して報告を行うとともに知見を広めた。

② 研究会・講演会の開催

今年度は東洋文庫において下記の「イスラム国家論研究会」および講演会を開催し、共同研究の充実と情報の交換とをはかった。

シンポジウム「イスラームと地域意識」（1993年5月8日）、黒岩高（東京大学）「18世紀中国西北部のイスラム聖者をめぐる社会集団形成」（6月12日）、今松泰（神戸大学）「19世紀後半のオスマン朝におけるベクタシ教団—イスハク・エフェンディのベクタシ教団論駁の書について—」（7月10日）、Dr. S. Deringil (Bosphorus University) ; “Islam as Proto-Nationalism in Ottoman Empire” (1993年2月5日)、Dr. D. Ayalon (Princeton University) ; “The Middle Eastern Studies : The Past and the Present” (1993年7月7日)、Dr. L. Golombek (Toronto Universi-

ty); "Timurid Ceramics Projects at Royal Ontario Museum" (1993年9月3日), Dr. M. Subtelny (Toronto University); "The Sunni Revival under Shah Ruh and its Promoters" (1993年9月3日)。

③ 図書資料の収集

本研究に必要な研究資料として、欧米の研究書55点、オスマン・トルコ語文献11点に加え、これまで研究資料の収集がきわめて困難であった旧ソ連邦のウズベキスタンから最近のウズベク語およびロシア語の研究文献52点を購入した。

(2) 研究成果と将来計画：

初年度の主な研究成果としては、以下のものをあげることができる。

H. Komatu, 20, Yuzyil Baslarinda Orta Asyada Turkculuk ve Devrim Hareketleri, Ankara, 1993. (『20世紀初頭の中央アジアにおけるトルコ主義と革命運動』), 八尾師誠編『銭湯へ行こう：イスラム編』Toto出版, 三浦徹「マムルーク朝時代のダマスクス：商人と行政」(『西洋史研究』22号), 永田雄三ほか『西アジア(下)』(地域からの世界史8)朝日新聞社, 佐藤次高・清水宏祐ほか『都市の文明イスラーム』講談社現代新書。

今後の研究計画としては、中東イスラム世界の領域を旧ソ連邦中央アジア地域にまで拡大することによって事例研究の豊富化をはかり、地域、時代間の比較検討をとおして総合研究の充実をめざしていきたい。また、国際的な共同研究の場をより積極的に求めていくことも今後の課題のひとつである。(未完)

【代表者】 小松久男研究員

【分担者】 永田雄三, 佐藤次高, 清水宏祐, 八尾師誠, 三浦徹の各研究員

生化学工業株式会社寄付金特定事業 (南方史研究委員会)

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト [プロジェクト代表者：山本達郎研究員]

【期間】 平成元年度～同6年度(6ヶ年計画)

【目的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当弥氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、

研究者に公開することを目的とする。

- 【事業内容】1) ヴェラルデ文庫：平成4年度に完成した解題付き文献目録をオフセットで印刷し、刊行した。
- 2) モリソン2世文庫：平成4年度に引き続き、分類整理を行い、登録・配架まで完了した。文献目録作成のため、コンピューターに入力したデータのチェックを開始した。

榎一雄記念特定事業

【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト [プロジェクト代表者：河野六郎研究員]

【期 間】 平成2年度～同6年度（5ヶ年計画）

【目 的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金1億円を以て、同家より寄付された故榎一雄博士旧蔵書の整理を行い、その目録を作成、刊行する。

- 【事業内容】1) コンピューター・ソフトの修正が済み、入力したもののテストを行っている。
- 2) 榎文庫の整理は前年度に引続き行った。その中、
- a) 雑誌については、和漢書雑誌は630タイトル、洋書雑誌320タイトルのカードを作成した。
 - b) 単行本については、平成5年度までに累計和漢書10,410冊、洋書6,500冊のカードを作成した。

v 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。平成5年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。なお、専任・兼任の研究員以外にも、外国人研究員、奨励研究員、日本学術振興会特別研究員なども各々の専門研究分野に応じて12研究委員会のいずれかに便宜上所属させた。

第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄，西江清高

古代史：宇都木 章，越智重明，太田幸男
唐代史（敦煌文献）：池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，松本 明
宋代史：草野 靖，佐伯 富，斯波義信，竺沙雅章，千葉 熨，中嶋 敏
柳田節子，渡辺紘良，周 振鶴，梁 紫紅
明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺 宏
近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，本庄比佐子，矢澤利彦，趙 軍
張 士陽，歐陽 菲

第2部 日本研究

日本：石塚晴通，上野英二，海野一隆，亀井 孝，酒井憲二，佐竹昭広
田中時彦，朽尾 武，鳥海 靖，宮崎修多，柳田征司，山口謡司

第3部 東北アジア研究

満洲・蒙古（清代史）：石橋崇雄，岡田英弘，加藤直人，神田信夫
C. A. ダニエルス，中見立夫，松村 潤
朝鮮：河野六郎，武田幸男，古屋昭弘，森岡 康，山内弘一，山内民博
徐 秉運

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦，片山章雄，後藤 明，小松久男，佐藤次高
清水宏祐，志茂碩敏，部 勇造，杉山正明，永田雄三
花田宇秋，本田實信，三浦 徹，護 雅夫，八尾師 誠
大稔哲也，マリア・サキム，托和提
チベット：川崎信定，北村 甫，立川武蔵，福田洋一，星 実千代，松濤誠達
御牧克己，山口瑞鳳，テンバ・ゲルツェン

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，池端雪浦，石井米雄，小名康之，風間喜代三，後藤均平
原 實，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎，水野善文

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫和文紀要

- 『東洋学報』第75巻第1・2号 平成5年10月刊 A5判 201頁
『東洋学報』第75巻第3・4号 平成6年3月刊 A5判 252頁

東洋文庫欧文紀要

- “Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No. 51 1993年刊
B5判 119頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

- 『チベット論理学研究』第6巻 平成6年3月刊 B5判 57頁
『トゥカン一切宗義校訂テキスト・索引』 平成6年3月刊 B5判 410頁
『チベット特別調査研究年次報告』 平成6年3月刊 A5判 10頁

近代中国研究委員会

- 『近代中国研究彙報』第16号 平成6年3月刊 A5判 103頁

東亜考古学研究委員会（平成5年度文部省国庫補助金「特別研究資料出版」費）

- 『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録Ⅲ—日本之部・中国之部—』 平成6年3月刊
B5判 261頁

宋代史研究委員会（平成5年度東洋文庫学術情報提供費

「参考情報提供サービス」

- 『宋史食貨志訳註（二）』 平成6年3月刊 A5判 680頁

東洋文庫諸目録・其他刊行物

- 『東洋文庫所蔵漢籍分類目録（子部）』 平成5年4月刊 B5判 178頁
『ベラルデ文庫目録』 平成5年4月刊 B5判 127頁
『東洋文庫新着図書目録』第41号 平成6年3月刊 B5判 81頁
『東洋文庫書報』第25号 平成6年3月刊 A5判 152頁
『東洋文庫年報』（平成4年度版） 平成5年11月 A5判 104頁
『東洋学報総目録 第1巻～第75巻』 平成6年3月 A5判 219頁
『東洋文庫刊行物目録（和文編）』 平成6年3月 B5判 51頁

3. 講演会

春期 東洋学講座 (共通テーマ：古代文字の解読研究)

- 第415回 平成5年5月25日(火)
「西夏文字解読の話」 文部省学術情報センター教授 西田 龍雄氏
- 第416回 平成5年6月1日(火)
「アルファベット起源と発展について」 東洋文庫研究員 東京大学助教授 薮 勇造氏
- 第417回 平成5年6月8日(火)
「甲骨文字の解読」 東京大学教授 松丸 道雄氏

秋期 東洋学講座 (共通テーマ：図像を読む)

- 第418回 平成5年10月12日(火)
「『火神』を描写した従園還城図部分
—ガンダーラ佛傳彫刻より—」 古代オリエント博物館研究部長 田辺 勝美氏
- 第419回 平成5年10月19日(火)
「漢代画像資料の解析方法」 東海大学教授 渡部 武氏
- 第420回 平成5年10月26日(火)
「漢代の昇仙画像」 京都大学人文科学研究所助教授 曾布川 寛氏

特別講演会 (不定期)

- 第1回 平成5年6月18日(金)
「明清珠江三角洲社会変遷
—從棲息於歴史的の角落到充當歴史的
通道—」 中国広東省社会科学院歴史研究所研究員 葉 顯恩氏
- 第2回 平成5年7月2日(金)
「中国曲村西周墓の発掘調査について」 北京大学考古学系教授 李 伯謙氏

- 第3回 平成5年7月7日(金)
「The Middle Eastern Studies :
The Past and The Present」
Dr., Prof. Emeritus David
(Princeton Univ.) Ayalon 氏
- 第4回 平成5年9月3日(金)
「The Ceramic Industry under the
Timurids and Early Safavids」
Dr., Curator, West Lisa
Asian Dept., Royal Golombek 氏
Ontario Museum
(Canada)
- 第5回 平成5年9月3日(金)
「The Sunni Revival under Shāh-Ruh
and its Promoters」
Dr., Associate Prof., Maria E.
Dept. of Middle Subtelny 氏
East and Islamic
Studies, Univ. of
Toronto (Canada)
- 第6回 平成5年9月29日(金)
「中国当代社会的變遷和文化演變」
中国遼寧社会科学 彭 定安氏
院研究員 (前副
院長)
- 第7回 平成5年10月8日(金)
「日本の民間外交と中国
—久原房之助を例として—」
華中師範大学歴史 趙 軍氏
研究所副教授
- 第8回 平成5年11月15日(月)
「明清時期商人資本集團 (商幫)
專題研究之二 —龍遊商人研究—」
浙江省社会科学院 陳 学文氏
歷史研究所長
- 第9回 平成6年1月21日(金)
「中日欧語接触研究
—以歷史, 經濟, 封建三譯語的形成
為說—」
上海復旦大学中国 周 振鶴氏
歷史地理研究所
教授
- 第10回 平成6年3月15日(火)
「ウイグル医学の研究について」
新疆医学院講師 マリア・サキム氏

4. 研究会 (東洋文庫談話会)

・平成5年9月21日(火)

「12～15世紀における死者の街とエジ
プト社会」

日本学術振興会
特別研究員 大稔 哲也氏

・平成6年3月25日(金)

「嘉慶期台湾先住民の自治規約をめぐ
る諸問題」

東洋文庫奨励研究員 張 士陽氏

5. 研究者養成

中国研究 張 士陽 「18・19世紀台湾における地域社会の形成」

中国研究 西江 清高 「中国先秦時代の考古学的研究」

インド研究 水野 善文 「中世ヒンディー文学の研究」

6. 学術情報提供

i 研究者の交流および便宜供与のサービス

1) 国内研究者の受入

大稔 哲也 日本学術振興会
特別研究員

「中世イスラーム社会における聖者崇
拝・聖墓参詣に関する歴史学的研究」
(平成4年以降2ヶ年間)

山内 民博 同上

「朝鮮李朝後期在地両班の旌表運動と
国家」(平成5年度1ヶ年間 [2年
度目就職のため辞退])

2) 外国人研究者の受入

Tempa 東洋文庫招聘研究員
Gyaltsen

「東洋文庫チベット研究委員会による
『チベット語文語辞典』の編纂協力」
(平成元年以降招聘)

周 振鶴	復旦大学中国歴史地理研究所教授	「19世紀欧・中・日歴史語彙の交流」(日本学術振興会の招聘) (平成5年度90日間)
趙 軍	華中師範大学歴史研究所副教授	「辛亥革命時期における日中関係史—特に孫文と日本の関係を中心にして—」(平成2年9月以降平成5年10月8日まで・私費)
Rebiya Tohti	中国全国人民代表大会民族委員会少数民族問題議案委員	「ウイグル族の歴史と文化」(平成3年度以降平成5年10月31日まで・私費)
陳 洪真	中国北京市鋼鉄研究総院研究員	「中国冶金技術発達史—特に宋代経済史における鉄・銅等技術史の研究—」(平成5年度1ヶ年間・私費)
マリア・サキム	中国新疆医学院講師	「ウイグル医薬学史の研究」(平成5年度1ヶ年間・日本医学関係奨学助成費)
欧陽 菲	北京工業大学講師	「日中近現代における経営の比較史的研究」(平成5年度1ヶ年間・私費)
徐 秉運	韓国外務統一委員会立法審議官	「韓日近現代外交史の研究」(平成5年8月以降1ヶ年間・大韓民国国会事務處派遣費)
梁 紫紅	米国コロンビア大学大学院東アジア文化・言語学科 Ph. D. 候補	「宋代の経済政策について」(平成5年度下半期間・フルブライトフェローシップ派遣費)

3) 研究者の派遣

4) 外国人研究者への便宜供与

Canada

Lisa Golombek Dr., Curator, West Asian Dept., Royal Ontario Museum

Maria E. Subtelny Dr., Associate Prof., Dept. of Middle East and Islamic Studies, Univ. of Toronto.

China (People's Republic)

葉 顯恩 広東省社会科学院歴史研究所研究員

許 檀 中国社会科学院経済研究所副研究員

李 伯謙 北京大学考古学系教授

陳 春声	中山大學歷史系副教授
馬 德	中國敦煌研究院遺書研究所副研究員
孫 修身	〃 考古研究所研究員
陳 柯雲	中國社會科學院歷史研究所副研究員
胡 宝國	〃 〃 助理研究員
趙 國忠	〃 西亞非洲研究所所長，教授
朱 家楨	〃 經濟研究所教授
厲 以平	〃 〃 〃
苗 壯	〃 科研組織處副處長
鐘 少華	北京市社會科學院歷史研究所研究員
彭 定安	遼寧社會科學院亞太研究所研究員
王 承禮	吉林省考古學會理事長
李 亞泉	〃 調研學會
陳 漱渝	北京魯迅博物館中國近代文學研究室主任
胡 滄澤	福建師範大學歷史系副教授
張 乃麗	山東大學經濟學院講師
田 余慶	北京大學歷史系教授
王 曉秋	〃 〃
李 克珍	北京大學出版社
王 仲濤	東北師範大學日本研究所講師
虞 雲國	上海師範大學歷史系副教授
嚴 學熙	南京大學留學生部江南經濟史研究室主任
茅 家琦	〃 歷史研究所教授
賀 金瑞	中國內蒙古教育學院講師
艾 鴻拳	遼寧省檔案局局長
趙 雲鵬	遼寧省檔案館館長
劉 立達	遼寧省稅務局副局長
仲 群	東北電力管理局檔案館館長
孟 祥江	大連經濟技術開發區檔案館館長
包 季明	鞍山市檔案局局長
魏 文華	營口市檔案局局長
孫 儒賢	本溪鋼鐵公司檔案處處長
凌 玉璽	盤錦市興隆台区檔案局局長
袁 照龍	遼寧省工商行政管理局副主任
程 于銅	鞍山市稅務局辦公室副主任

高 忠林	鐵嶺市人民銀行副行長
葛 仁軍	遼寧省檔案局助理館員
劉 漢民	遼寧省對外友好服務中心副總經理
郭 春英	遼寧省工商局主任科員
孟 憲榮	遼寧省稅務局副處級調研員
郎 維成	東北師範大學日本研究所研究員
葛 劍雄	復旦大學中國歷史地理研究所研究員
許 寶華	〃 中文系教授
葉 坦	中國社會科學院經濟研究所研究員
馬 大正	中國社會科學院中國邊疆史地理研究所中心研究員
華 立	中國人民大學清史研究所研究員，副所長
喬 治忠	南開大學古籍研究所副研究員
韓 琦	中國科學院自然科學史研究所（助理研究員）
陳 學文	浙江省社會科學院歷史研究所所長，研究員
李 月華	內蒙古大學圖書館技術服務部主任
陳 金山	〃 〃 館員
蘇 日娜	〃 蒙古學文獻中心館員
何 忠禮	杭州大學歷史系教授
王 勇	〃 〃
阿達來提	新疆醫學院助教授
許 素玲	〃 〃
李 大勇	四川省社會科學院
薄 音湖	內蒙古大學蒙古史研究所
閻 征	中國社會科學院語言研究所
白 維國	〃 〃
陳 鉄健	〃 近代史研究所研究員
王 士花	〃 〃 研究生
褚 俊傑	中國藏學研究中心歷史宗教研究所副研究員

China (Taiwan)

秦 賢次	現代中國文學研究資料社（社員）
林 登讚	中央研究院傅斯年圖書館館長
陳 慈玉	〃 近代史研究助理研究員
吳 文星	台灣師範大學

- Czech Republic
Oldřich, Král Professor, Dept. of East Asian Studies ;
Center for Comparative Studies, Univerzita Karlova (Charles University), Praha.
- France
Denys Lombard Directeur, Ecole Française d'Extrême-Orient.
Pierre-François Souyri Directeur des Etudes, /
- Israel
Myrian Roseu-Ayalon Dr. Prof., Head of Institute of Asian and African Studies, Faculty of Humanities, Hebrew Univ. of Jerusalem.
- Italy
Giovanni Desantis Prof., Lecturer of the Italian Government at Sophia Univ.
Donatella Rossi Research Fellow, International Shang Shung Institute for Tibetan Studies, Rome.
- Korea (Republic)
全 玉年 釜山大学校博物館助手
金 鎮鳳 忠北大学校人文大学教授
金 性基 / 社会科学經濟学科助教授
吳 星 世宗大学校文科大學歴史学科副教授
- Mongolian People's Republic
Dashnavaa Chuluun Chairman, State Archives Administration of Mongolia.
- Pakistan (Islamic Republic)
Asad M. Khan Embassy of Pakistan.
- Russia
M. I. Vorobyova- Dr., Supervisor of Manuscript Department,
Desyatovskaya Institute of Oriental Studies (St. Petersburg), Russian Academy of Sciences.
- Syria
'Ali Kana'an Poet, Playwriter, Scenario Writer.
- Thailand
M. L. Panadda Diskul Chief, Foreign Affairs Divison, Ministry of Interior, Bangkok.
Sumalun Suvansang Ayutthaya Historical Studies Center.

- Wongduen Narasuj Instructor, History Dept., Faculty of Social Sciences, Srinakharinwirot University, Bangkok.
- U. K.
Glen Dudbridge Prof., Dr., Oriental Institute (Chinese), Univ. of Oxford.
- U. S. A.
Susan Naquin Prof., Dept. of History, Univ. of Pennsylvania.
David Ayalon Dr., Prof. Emeritus, Princeton Univ.
Philip Kuhn Prof., Dept. of History, Harvard Univ.
M. Nakamura Librarian, Assistant Prof., of Library Administration (Japanese Studies), Univ. of Illinois at Urbana-Champaign.
成中英 Prof. (Chineses Philosophy), 夏威夷大学 (Univ. of Hawaii).

ii 研究会等への会場提供サービス

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	17	17	31	34	16	40	25	22	21	17	16	24	280回
参加人数	118	206	359	257	85	229	366	177	124	120	96	156	2,293人

iii 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第74巻3・4号	500部
東洋学報 第75巻1・2号	500部
Catalogue of the TSUJI NAOSHIRO Collection in the Toyo Bunko (Ⅲ). Index of C.T.C. (Ⅰ)(Ⅱ).	各200部
Catalogue of the OGIWARA KOMEI Collection in the Toyo Bunko	200部
Catalogue of the Toyo Bunko Publications	1000部
近代中国研究彙報第15号	70部
東洋文庫欧文紀要第50号など5種	各 50部

iv 参考情報提供サービス

- 1) 『東洋文庫年報』平成4年度版 A5判 1冊 (刊行済)
 - 2) 『東洋学報総目録』(第1～第75巻) A5判 1冊 (刊行済)
 - 3) 『宋史食貨志訳註(二)』 A5判 1冊 (刊行済)
 - 4) 『東洋文庫出版物目録』(和文編) B5判 1冊 (刊行済)
- (上記の出版については、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)

※ なお、≪6. 学術情報提供≫における「図書資料の閲覧(協力)サービス」, 「研究資料複写サービス」の事業報告については、『I. 図書事業』の条項に便宜上掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」, 「研究資料の補修複製本・製本」については、平成5年度とくに報告することはない。

7. 職員の研究業績

期間：平成5年4月1日～平成6年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

荒 松雄

①『多重都市デリー——民族・宗教と政治権力——』（中央公論社，1994年11月，288頁）。

池田 温

③「初唐西州高昌縣授田簿考」（黄約瑟・劉健明合編『隋唐史論集』香港大学亞洲研究中心，178～197頁，1993年），④「敦煌文学と日本上代文学」（国語と国文学70—11，12～23頁，1993年11月），「第34回 ICANAS パネル報告，中日文化交流・敦煌学等」（東方学会報65，14～17頁，1993年12月），⑤「『新編全唐五代文』の真価を窺わせる韓理洲著『唐文考辨初編』」（東方，26～29頁，東方書店，1993年12月），⑦「唐令与日本令」（中国社会科学院歴史研究所学術報告，1993年6月19日，中国史研究動態，李錦綉記録，黄正建整理，30～31頁，1993年8期），「東亞元号管見」（中国法律史国際学術研討会，於懷柔県雁棲湖律師培訓中心，1993年6月29日），「圍繞喪葬令看唐令与日本令」（第34回国際アジア・北アフリカ研究会議，於香港 YMCA405号室，1993年8月27日），「有関中世紀訪日元僧竺仙梵僊」（中国中日関係史学会学術報告会，於北京市政協會議庁，1993年9月4日）⑧「離任のごあいさつ，離任致辞」（北京日本学研究中心通訊31，1993年9月），「日中のかけ橋」（聖教新聞10面，1993年10月23日），「矢内原忠雄と牧口常三郎」（創価大学人文論集6，1～4頁，1994年3月）。

石橋 崇雄

③「東洋文庫所蔵の満文『正黄旗満洲已買得人口銀兩數目詳檔』」（神田信夫編『日本所在清代檔案史料の諸相』，東洋文庫清代史研究室，81～90頁，1993年3月），「『遼寧省図書館特蔵部』所蔵の満文『御製朋黨論』」（中島幹起編：調査報告「中国周辺部における言語接触と社会文化変容——漢族文化と非漢族文化との相互関係——」，『言語文化接触に関する研究』6，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，275～286頁，1993年3月），「清初皇権の形成過程」（『慶祝王鐘翰

先生八十寿辰学術論文集』、遼寧大学出版社、52～61頁、1993年6月）、「順治初纂『大清太宗文皇帝実録』の満文本について」（松村潤先生古稀記念『清代史論叢』、汲古書院、127～139頁、1994年3月）、⑧「清朝の歴史と歴代皇帝」（『満学協会会報』平成五年春季号・第四号、7～8頁、1993年6月）、「入関後の清朝歴代皇帝」（『満学協会 会報』平成五年春季号・第四号、9～12頁、1993年6月）。

梅村 坦

②山田信夫著『ウイグル文契約文書集成』全3巻（小田壽典・Peter Zieme・梅村坦・森安孝夫編、大阪大学出版会、1993年12月、xviii+590+12頁、xxi+330頁、viii+Tafe1160）、⑥張承志著『殉教の中国イスラム——神秘主義教団ジャフリーヤの歴史——』（梅村坦編訳、亜紀書房、1993年10月、xviii+299+x頁）、⑦「中国を変えたイスラーム」（渋谷区教育委員会主催・社日本イスラム協会後援／平成5年度区民大学講座「世界史からみたイスラーム文明」第7回、1993年12月）、⑧「絹馬（茶馬）貿易」（『歴史学事典』1《交換と消費》、233～238、弘文堂、1994年2月15日）、「〈座談会〉欧米の東洋学」（月刊しにか5—3、44～56、大修館書店、1994年3月）。

海野 一隆

③「南蛮系世界図の系統分類」（有坂隆道・浅井允晶編『論集日本の洋学』I、9～80頁、清文堂出版、1993年12月）、④「古地図研究の過去・現在・未来——独断と偏見をまじえて随筆風に——」（日本地図資料協会『古地図研究』別巻、1～22頁、大空社、1993年6月）、同（月刊古地図研究24—5、2～11頁、日本地図資料協会、1993年7月）、⑤「琉球国絵図史料集 第1集 正保国絵図及び関連史料」（地図32—1、49—50頁、日本国際地図学会、1994年3月）、⑦「倭国・ジパング・大日本——地図の中の日本——」（於東京、天理ギャラリー、1993年5月29日）、“Maps of Japan Used in Prayer Rites or as Charms”（XVth International Conference on the History of Cartography, Chicago, 1993年6月21日）、“A Surveying Instrument Designed by Hōjō Ujinaga (1609—1670)”（7th International Conference on the History of Science in East Asia, Kansai Science City, 1993年8月7日）、「地球儀と日本人」（於土浦市亀城プラザ文化ホール、1994年2月27日）、⑧「蘭学系世界図」（『国史大辞典』14巻、507～508頁、吉川弘文館、1993年4月）、「流宣図」（同、607～608頁）、「日本学士院所蔵無題東西両半球図」（洋学〈洋学史学会研究年報〉1、口絵解説、八坂書房、1993年5月）、「地図学史奨学金に名を残したハーリ氏」（リベルス9、25頁、柏書房、1993年6月）、「地図」（『日本史大事典』4巻、863～864頁、平凡社、1993年8月）、「地球

儀と日本人——地球説の伝来から幕末まで——」（『地球儀の世界』〈土浦市立博物館第12回特別展図録〉、6～11頁、1994年1月）、「ハーリ地図学史研究奨学金第1回授与決定」（地図32—1、53頁、日本国際地図学会、1994年3月）。

大稔 哲也

③「エジプト死者の街における聖墓参詣——十二—十五世紀の参詣慣行と参詣者の意識——」（史学雑誌102—10、1～49頁、史学会、1993年10月）、「十二—十五世紀エジプトにおける死者の街——その消長と機能の諸相——」（東洋学報75—3・4、161～202頁、東洋文庫、1994年3月）、“The Manners, Customs, and Mentality of Pilgrims to the Egyptian City of the Dead: 1100—1500 A. D.” (*Orient* 29、19～44頁、日本オリエント学会、1994年)、⑦「12—15世紀エジプト・死者の街の聖者たち」（日本中東学会第九回年次大会、於神戸大学、1993年5月16日）、「12—15世紀における死者の街とエジプト社会」（東洋文庫談話会、1993年9月21日）、「エジプトにおける「聖者崇拜」と現地調査」（早稲田大学東洋史懇話会、1994年3月29日）、⑧「タムガー（商税）」、「マラーイー（家畜・牧地税）」、（『世界史を読む辞典』、地域からの世界史・第20巻、271頁、1994年1月）。

岡田 英弘

①『中国情勢と台湾の役割』（国際関係基礎研究所、38頁、1993年8月）、『チングス・ハーン』（朝日新聞社、369頁、1994年1月）、『倭国の時代』（朝日新聞社、358+11頁、1994年2月）、『台湾人は中国人か』（国際関係基礎研究所、27頁、1994年3月）、③「司馬懿仲達「最終勝利者論」6 魏朝地政論 魏・晋軍事大国への条件」（歴史群像6、120～121頁、学習研究社、1993年4月）、「司馬懿仲達「最終勝利者論」7 時代状況論 揺れ動く「世界史の舞台」（歴史群像6、122～125頁、学習研究社、1993年4月）、「特集【官僚王国解体論】 それは孔子から始まった 賄賂から天下りへ「官僚の世界史」（現代27—4、214～222頁、講談社、1993年4月）、”A comparison of the Manchu and Chinese texts of Emperor Ch'ien-lung's compositions on the Torguts 清高宗御製土爾扈特詩文滿漢文之比較”（『第六屆中國域外漢籍國際學術會議論文集』、聯合報文化基金會國學文獻館、13～23頁、1993年5月）、”The descendants of Jöchi Khasar in *Altan Tobchi* of Mergen Gegen 墨爾根格格所撰『黃金史綱』中之拙赤合撒兒世系”（『第六屆亞洲族譜學術研討會會議記錄』、聯合報文化基金會國學文獻館、45～57頁、1993年5月）、「漢民族とチベット民族問題とダライ・ラマ」（『二十一世紀の民族と国家』、日本経済新聞社、178～182頁、1993年10月）、”Chinggis Khan's instructions to his kin in Blo-bzang-bstan-'dzin's *Altan Tobci*”（『蒙古文

化國際學術研討會論文集』，張駿逸編，蒙藏委員會，1993年10月，228～236頁），”
The khan as the sun, the jinong as the moon” (*Altaica Berolinensia, The concept of sovereignty in the Altaic world, Permanent International Altaistic Conference 34th Meeting, Berlin 21—26 July, 1991*, Harrassowitz Verlag, Wiesbaden, 1993. pp. 185～190.)，”The Mongolian literary tradition in early Manchu culture” (*Proceedings of the 35th Permanent International Altaistic Conference 第三十五屆世界阿爾泰學會會議記錄 September 12—17, Taipei, China*, Center for Chinese Studies Materials, Taipei, 1993, pp. 377～386.)，「清初の満洲文化におけるモンゴルの要素（『松村潤先生古稀記念清代史論叢』，汲古書院，19～33頁，1994年3月），「草原の十字路——カラコルム」（『アジアの交流——歴史と文化のダイナミズム』，亜細亜大学アジア研究所，79～113頁，1994年3月），④「特集＝第34回国際アジア・北アフリカ研究会議 (ICANAS) 中央アジア・モンゴル研究」（東方學會報65，17～18頁，東方學會，1993年12月），⑤”David M. Farquhar: *The Government of China under Mongolian Rule: A Reference Guide.*” (*Monumenta Serica* 41, pp. 366～369. 1993.)，「島田正郎著『清朝蒙古例の実効性の研究』（東洋法史論集第七）」（法制史研究43，365～371頁，創文社，1994年3月），⑦「アジアをどう考えるか——歴史の展望のもとに」（MTB アップルブランニング株式会社第2回アップル・セミナー，1993年4月9日），「日本新刊札奇斯欽著『我所知道的徳王和當時的内蒙古』紹介」（第八屆中國域外漢籍國際會議，1993年5月24日），「『日本書紀』皇統譜攷實」（第七屆亞洲族譜學術研討會，1993年5月25日），「モンゴル史をどう見るか」（日本モンゴル文化交流協会，1993年6月11日），「中国情勢と台湾の役割」（エグゼクティブ・アカデミー，1993年6月18日），「草原の十字路——カラコルム」（亜細亜大学アジア研究所第13回公開講座「アジアの交流」第3週，1993年6月19日），「モンゴル——年代記と叙事詩の世界1 英雄叙事詩の世界：モンゴル文学の伝統」（朝日カルチャーセンター，1993年7月13日），「モンゴル——年代記と叙事詩の世界2 『元朝秘史』その一：チンギス・ハーン」（朝日カルチャーセンター，1993年7月27日），「ソ連の崩壊——中央アジア諸国とチンギス・ハーン」（四日市市民大学平成5年Cコース第4回，1993年7月29日），「モンゴル——年代記と叙事詩の世界3 『元朝秘史』その二：年代記文学の発生」（朝日カルチャーセンター，1993年8月10日），”Dayan Khan as a Yüan emperor: The political legitimacy in 15th century Mongolia” (34th International Congress of Asian and North African Studies, 1993年8月24日)，「モンゴル——年代記と叙事詩の世界4 トゴン・テムル・ハーンの悲嘆の歌」（朝日カルチャーセンター，1993年8月31日），「モンゴル——年代記と叙事詩の世界5 『蒙古源流』と『黄金史』：北元の時代」（朝日カ

ルチャーセンター, 1993年9月14日), 『『三国志』と『三国志演義』』(古代を学ぶ会, 1993年9月22日), 「モンゴル——年代記と叙事詩の世界6 アルタン・ハーン: モンゴルの仏教帰依」(朝日カルチャーセンター, 1993年9月28日), 『『三国志』とその時代1 『三国志』の成り立ち: 陳寿と張華』(朝日カルチャーセンター, 1993年10月12日), 『『三国志』とその時代2 後漢を倒した「黄巾の乱」: 曹操の出現』(朝日カルチャーセンター, 1993年10月26日), 「新・世界史(1) 中国史を見直す1 中国ができるまで」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1993年10月27日), 『『三国志』とその時代3 魏・呉・蜀の三国の鼎立』(朝日カルチャーセンター, 1993年11月9日), 「新・世界史(1) 中国史を見直す2 第一期の中国: 秦・漢」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1993年11月10日), 「鄧小平と台湾の今後」(大阪キワニス・クラブ, 1993年11月16日), 「モンゴル人の歴史が教えるもの」(京都大学歴史研究会, 1993年11月21日), 「新・世界史(1) 中国史を見直す3 第二期の中国: 隋・唐」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1993年11月24日), 『『三国志』とその時代4 司馬懿と「親魏倭王」卑弥呼』(朝日カルチャーセンター, 1993年11月30日), 「新・世界史(1) 中国史を見直す4 第三期の中国: モンゴル帝国」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1993年12月8日), 『『三国志』とその時代5 『三国志演義』の物語: 関帝の縁起』(朝日カルチャーセンター, 1993年12月14日), 「新・世界史(1) 中国史を見直す5 現代の中国: 日本時代」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1993年12月22日), 「台湾人は中国人か」(国際関係基礎研究所, 1994年1月19日), 「中国史の再発見1 武帝と司馬遷: なぜ『史記』を書いたか」(朝日カルチャーセンター, 1994年1月21日), 「中国史の再発見2 「五帝」と「三代」: 中国ができるまでに」(朝日カルチャーセンター, 1994年2月4日), 「中国史の再発見3 秦の始皇帝: 都市と漢字と皇帝の三要素」(朝日カルチャーセンター, 1994年2月18日), 「中国史の再発見4 前漢の高祖劉邦: 封建制度か郡県制度か」(朝日カルチャーセンター, 1994年3月4日), 「中国史の再発見5 武帝の対外政策: 匈奴帝国, 南越, 朝鮮」(朝日カルチャーセンター, 1994年3月18日), ⑧「談話室」(文化会議290, 39頁, 日本文化会議, 1993年8月), 「特集 朝日新聞社版では削除された中国文化大革命の地獄の人喰い」(週刊新潮38・39, 140~144頁, 新潮社, 談話, 1993年10月14日), 「書きたいテーマ・出した本 モンゴル歴史文学の至宝の翻訳」(出版ニュース1993年10月下旬号, 33頁, 出版ニュース社, 1993年10月21日), 「民族のこころ(105) 台湾の尼寺」(アジア・アフリカ言語文化研究所通信79, 19頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1993年11月), 「質問」(北岡伸一『五五年体制の崩壊とその後』, 国際関係基礎研究所, 30~32頁, 1993年12月)。

越智 重明

- ①『戦国秦漢史研究2』(中国書店, 595頁, 1993年4月), ③「王羲之をめぐる」(久留米大学文学部紀要 国際文化学科編3, 87~110頁, 久留米大学, 1993年6月), 「漢時代の家と家族」(比較文化研究14, 73~169頁, 久留米大学比較文化研究所, 1993年12月), ⑧「解説——アジアの雑技」(『中国芸能史』, 270~288頁, 三一書房, 1993年5月), 「サーカス」(『地域からの世界史20 世界史を読む事典』, 310~320頁, 朝日新聞社, 1994年1月)。

風間 喜代三

- ①『言語学』(上野・松村・町田三氏と共著)(東大出版会, 4+259頁, 1993年9月), ⑤「『亀井孝論文集6 言語 諸言語 倭族語』」(言語研究105, 131~138頁, 1994年3月), ⑦「印欧語学の問題点」(平成5年度アジア・アフリカ諸言語の総合研究, 文法部会, プロジェクト研究会, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1993年12月), ⑧「辻直四郎」(月刊しにか4-8, 108~113頁, 大修館書店, 1993年8月)。

加藤 直人

- ③「『逃人檔』與『滿文原檔』」(『慶祝王鍾翰先生八十壽辰學術論文集』遼寧大学出版社, 62~70頁, 1993年6月), ③「莫力達瓦達翰爾族自治旗の滿文資料」(『滿族史研究通信』3, 25~33頁, 滿族史研究会, 1993年12月), ③「中国第一歴史檔案館所蔵『逃人檔』について」(『松村潤先生古稀記念清代史論叢』, 汲古書院, 183~199頁, 1994年3月), ⑤「慶祝王鍾翰先生八十壽辰學術論文集編輯委員會編『慶祝王鍾翰先生八十壽辰學術論文集』」(滿族史研究会, 1993年12月), ⑤「大連市図書館文献研究室, 遼寧社会科学院歴史研究所他編『大連市図書館蔵清代内閣大庫散佚檔案選編』」(滿族史研究通信3, 71~72頁, 滿族史研究会, 1993年12月), ⑧「東洋文庫清代史研究会」(滿族史研究通信3, 66頁, 滿族史研究会, 1993年12月)。

川崎 信定

- ①『原典訳 チベットの死者の書』(ちくま学芸文庫), (筑摩書房, 244頁, 1993年6月7日刊), ③“Principle of Life according to Bhavya”, in Ram Karan Sharma ed.: *Researches in Indian & Buddhist Philosophy; Essays in Honour of Professor Alex Wayman* (Delhi, pp. 69~81, 1993), ⑦『所知障と一切智をめぐる』, 日本印度学仏教会学会術大会, (高野山大学, 5月22日), 「チベット仏教にみえる終末観」, 日本学術会議第3回シンポジウム:『~終末観~』(日本学術会議,

10月26日),『終末意識をチベット仏教に見る』,北海道印度哲学仏教学会第23回例会,(北海道大学,6月26日)。

神田 信夫

②『歴代宝案校訂本第四冊』(沖縄県教育委員会,13+599頁,1993年12月),③「荻生徂徠の満文考と清書千字文」(『第六届中国域外漢籍国際会議論文集』台北・聯合報文化基金会国学文献館,405~421頁,1993年5月),「關於日本遺存的《清三朝実録》来歴」(『慶祝王鍾翰先生八十壽辰學術論文集』瀋陽・遼寧大学出版社,31~38頁,1993年6月),「清朝の詰命について」,(『中国書論大系月報13』,二玄社,7~10頁,1993年8月),⑤「金啓琮著『瀋水集』」(満族史研究通信3,67~68頁,満族史研究会,1993年12月),「李興盛著『東北流人史』」(満族史研究通信3,68頁,満族史研究会,1993年12月),⑦「満洲族の過去と現在」(拓殖大学日本文化研究室公開講演会,1993年11月26日),⑧「旧満洲檔を求めて—その2—」(満族史研究通信3,6~9頁,満族史研究会,1993年12月),「東洋史用語の解説」(『現代用語の基礎知識1994』,自由国民社,1224~1230頁,1994年1月)。

草野 靖

③「宋代の形勢戸」(福岡大学人文論叢25-1,251~294頁,福岡大学総合研究所,1993年6月)。

後藤 均平

①『越南義烈史』(刀水書房,33+195頁,1993年4月),③「蔡廷蘭『海南雜著』とその試訳」(史苑54-1,pp.81~113,1993年12月),⑤白石昌也『ベトナム—革命と建設のはざま—』(世界史の研究158,46~48頁,山川出版社,1994年2月)。

小松 久男

①『イスラーム復興はなるか』(イスラームの世界史3)(講談社現代新書,162~204頁,1993年11月),『中央アジア・旧ソ連イスラーム諸国の読み方』(ダイヤモンド社,59~82頁,1994年2月),③中央アジアの変動とイスラーム復興(『イスラーム復興主義運動の諸組織と実態』,日本国際問題研究所,35~40頁,1993年3月),「中央アジアの都市と民族問題」(板垣雄三・後藤編『イスラームの都市性』,日本学術振興会,302~317頁,1993年6月),「民族・言語・歴史:汎トルコ主義からの眺望」(『民族に関する基礎研究:国家と民族』,NIRA研究報告書,47~68頁,1993年8月),⑦「中央アジアの過去と現在」(アジア社会問題研究所,

1993年4月22日、講演記録『アジア諸国の宗教・社会と経済発展に関する調査研究』アジア社会問題研究所、65～76頁、1993年5月）、「中央アジアのイスラム：過去と現在」〈世界のイスラム問題：第6回〉（新宿・朝日カルチャー・センター、1993年9月17日）、「二つの都市のタジク人」（東京外国語大学海外事情研究所連続講演会、1993年10月30日）、「中央アジアを変えるイスラム」〈渋谷区区民大学講座：世界史からみたイスラーム文明：第13回〉（渋谷区教育センター、1994年2月28日）、⑧「中央アジアの歴史的背景」（『中央アジアと中東の研究』、中東調査会、6～22頁、1993年3月）、「〈シンポジウム〉 新たなる中東の広がり：ソ連邦の崩壊とその後」（日本中東学会年次大会、神戸大学、1993年5月15日）、「〈パネル・ディスカッション〉 浮上する中央アジア・イスラーム諸国」（第15回 IUJ フォーラム、国際大学東京事務所、1994年3月5日）、「ウズベク語」『世界の言葉 小事典』（大修館、1993年）。

佐伯 富

③「弘法大師と急就章」（書論28、246～256頁、1992年12月）、⑦「歴史上における茶の問題」（追手門学院大学、1993年10月28日）。

酒井 憲二

②『寛永諸家系図伝十五』（校訂協力）（続群書類従完成会、268頁、1994年2月）、③「中世末の言葉の流れ」（調布日本文化第4号、24頁、1994年3月）、⑦「漢字仮名交り文について」（東京都中学校国語教材研究会、大原会館、1993年11月20日）。

佐藤 次高

①『地域からの世界史7・西アジア（上）』（共著、朝日新聞社、11～17、99～198頁、1993年6月）、『現代の世界史』（共著）（山川出版社、192頁、1994年3月）、②『新書イスラームの世界史①都市の文明イスラーム』（共編）（講談社現代新書、257頁、1993年9月）、『山川世界史総合図録』（共同監修）（山川出版社、208頁、1994年1月）、③「アラブ・イスラーム世界の都城—バグダードとカイロ」（板垣雄三・後藤明編『イスラームの都市性』、日本学術振興会、226～243頁、1993年6月）、④Recent Development in Chinese Islamic Studies (3) : Survey of Research Institutions in Yunnan, *Asian Research Trends*, No. 3, pp. 131～142, 1993.

部 勇造

③「ソコトラ——その歴史と現状——」（日本中東学会年報8、299～321頁、日本中東学会、1993年3月）、「ソコトラ島のキリスト教について」（東洋史研究51

—4, 97~122頁, 東洋史研究会, 1993年3月), 「アドゥーリス紀功碑文の新解釈」(東西海上交流史研究3, 73~114頁, 東西海上交流史研究会/中近東文化センター, 1994年2月), ④「イエメン・レポート——調査(1990年10月~12月)報告と学界動向——」(オリエント35—2, 156~177頁, 日本オリエント学会, 1993年3月), “Une nouvelle interprétation du *Monumentum Adulitanum*” (International Symposium on Egypt and Arabia in History, カイロ, 1993年4月4日), 「アルファベットの起源と発展について」(東洋文庫平成5年度春期東洋学講座, 1993年6月1日), “Encore à propos de Himyar : problème pas encore résolu” (International Symposium on Linguistic and Ethno-Cultural History of Semitic Peoples, モスクワ, 1993年9月20日), 「前イスラーム時代のインド洋貿易」(シンポジウム『インド洋の海上貿易』, 金沢大学, 1993年10月9日), 「古代オリエント文明の継承者イスラーム」(渋谷区区民大学講座, 1993年10月29日), ⑧「イスラームの聖地メッカ」(MUSEUM KYUSHU 43, 13~20頁, 博物館等建設推進九州会議, 1993年4月)。

滋賀 秀三

③ “A Basic History of T'ang Legislative Forms” (*Asia Major*, Third series Vol. 5, part 2, pp. 97~110, Princeton University, 1992 [Actually published in Feb. 1994]), ⑤「梅原郁編『中国近世の法制と社会』」(東洋史研究52—4, 151~161頁, 東洋史研究会, 1994年3月), 「富谷至『王杖十簡』」(法制史研究43(1993), 373~375頁, 法制史学会, 1994年3月)。

杉山 正明

①「八不沙大王の令旨碑より」(東洋史研究52—3, 105~154頁, 1993年12月), ②「世界史と遊牧民」(『世界史の構想』(地域からの世界史21), 177~197頁, 朝日新聞社, 1993年10月), ③「モンゴルが『世界史』をひらく」(『バクス・イスラミカの世紀』(新書イスラームの世界史2), 17~40頁, 講談社, 1993年10月)。

関野 雄

③「山東臨淄齊国故城の実測図」(古文化談叢30(中)603~612頁, 九州古文化研究会, 1993年8月), ⑧「校正漫語」(弥生22, 1~4頁, 東京大学文学部考古学研究室談話会, 1993年12月)。

武田 幸男

①『朝鮮——地域からの世界史(1)』(朝日新聞社, 全205頁中の78+8頁, 1993年

5月), ③「蔚州書石谷における新羅・葛文王一族」(東方学85, 1~23頁, 東方学会, 1993年1月), 「碑文からみた四・五世紀の高句麗」(『広開土王碑と古代日本』, 学生社, 34~56頁, 1993年9月), ④「その後の広開土王碑研究」(年報朝鮮学3, 1~19頁, 九州大学史学会, 1993年3月), ⑦「加羅と新羅のあいだ——昌寧・桂城古墳出土土器「大千」銘の一解釈——」(東京大学文学部朝鮮文化研究室研究発表会, 1993年6月1日), ⑧「任那と加羅(伽耶)」(歴史と地理451, 31~34頁)。

田中 時彦

③「広沢真臣暗殺事件の政治的背景(三)」(東海大学政治経済学部紀要22, 1~27頁, 1990年), 「広沢真臣暗殺事件の政治的背景(四・五)」(東海大学政治経済学部紀要25, 77~102頁, 1994年), ⑧『国史大辞典』(吉川弘文館, 第11巻, 「パークス」, 488頁, 1990年, 第14巻, 「レイ」692頁, 1993年), 『現代政治学事典』「衆議院」(434頁), 「衆議院議員」(434頁), 「帝国総会」(699頁), 「内閣」(747頁), 「内務省」(752頁)(ブレーン出版, 1991年), ⑧『日本外交史辞典』「サトウ」(349頁), 「パークス」823頁, (山川出版社, 1992年)。

C. A. ダニエルズ

②“Perspective on Chinese Society: Views from Japan” (Suenari Michio, J. S. Eades, Christian Daniels 編, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 5+338頁, 1994年3月), ③「明末清初福建の樹皮布消費について——『天工開物』に書かれなかった製紙史の一側面——」(松村潤先生古稀記念論文集編纂委員会編『松村潤先生古稀記念清代史論叢』, 243~256頁, 汲古書院, 1994年3月), 「女性の礼拝しない村——西雙版納の傣族ムスリム・パーシーダイの現状と歴史——」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所通信80, 1~13頁, 1993年3月25日), ⑦「雲南大理の甲馬紙と紙火について——実地調査を中心にして」(第44回日本道教学会大会, 二松学舎大学, 1993年11月6日), 「シブソンパンナー王国の独自性——技術・物質文化から視点」(国士館大学東洋史講演会, 1993年11月16日), 「西雙版納の農業技術体系」(科学研究費総合(A)『中国の方言と地域文化』(課題番号05301056 代表 平田昌司) 第3回研究会, 京都大学, 1993年12月20日), 「中国史における多民族性——雲南シブソンパンナー」(オリエント・クラブ, 東京, 国際文化会館, 1994年3月25日), ⑧「眼福——賀焜的新作品 A Feast For the Eyes: He Kun's Latest Paintings」(漢英対訳) (『賀焜作品集』, 42~44頁, 北京, 北京工芸美術出版社, 1993年11月)。

竺沙 雅章

- ③「新出資料よりみた遼代の仏教」(禅学研究72, 1~26頁, 1994年1月), ⑦「宋元文化の北流」(史学研究会大会, 1993年11月2日, 要旨: 史林77—1, 150~153頁, 1994年1月), ⑧「桑原文庫の思い出」(以文36, 2~5頁, 1993年10月), 「宿直のことなど」(『小林行雄先生追悼録』, 187~188頁, 1994年2月)。

千葉 熈

- ⑦「中国の皇帝と后妃」(富山市民大学特別講演, 1993年9月30日, 『市民大学叢書45』として刊行, 富山市教育委員会, 1994年3月31日)。

張 士陽

- ③「乾隆期台湾における先住民統治政策について——『番地』政策を中心に——」(東洋学報75—3・4, 99~130頁, 東洋文庫, 1994年3月), ⑤「三田裕次氏蔵台湾関係文書目録と解説」(アジア・アフリカ言語文化研究45, 205~220頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1993年3月), ⑦「清代台湾における先住民の土地問題」(1993年度立教大学史学会大会報告, 1993年11月27日), 「嘉慶期台湾先住民の自治規約をめぐる諸問題」(東洋文庫談話会, 1994年3月25日), ⑧「事典項目執筆「高山族」・「台北」・「台湾土地調査事業」・「高雄」・「福州」」(『日本史大事典』第3巻—第5巻, 平凡社, 1993年5月・8月・11月)。

鶴見 尚弘

- ①『沈黙の古代遺跡』(講談社, 148頁, 1993年4月), ③田中正俊共著「竜骨車と農民」(明史研究3, 中国明史学会主弁, 1993年7月), 「中国の改革・開放政策と知識人」(『神教研「文化講座」』24, 1994年2月), ⑦「日本と韓国・中国の歴史教育」(横浜市退職女性校長会, 1993年4月26日), 「中国の改革・開放政策と知識人」(神奈川県教育研修会, 1993年度第一回講演会, 5月26日), 「竜骨車と農民」(第五回中国明史国際学術討論会, 1993年8月), 「日本人のアジアを見る目とアジア人の日本を見る目」(県立教育センター第二研修会, 1993年11月15日), ⑧「国家と民族をこえて」(じつきょう, 37, 1994年2月)。

枋尾 武

- ①『貞和本 和漢朗詠集 附漢字総索引和歌用語索引』(臨川書店, 4+513頁, 1993年5月), ③「京大本紫明抄天理本河海抄 引用漢籍注考證稿 桐壺(-)」(成城國文學論集22, 29~130頁, 1994年3月)。

鳥海 靖

①『日本の歴史』（児玉幸多氏らと共著，山川出版社，380頁，1994年3月），『現代の日本史』（渡辺昭夫氏らと共著，山川出版社，192頁，1994年3月），②『国史大辞典』第14巻（共編，吉川弘文館，972頁，1994年3月），『品川弥二郎関係文書』第1巻（共編，尚友倶楽部，469頁，1993年9月），③「パリ講和会議における日本の立場——人種差別撤廃問題を中心に」（法政史学46，1～18頁，法政大学史学会，1994年3月），⑦「明治維新と立憲政治の構想」（第4回日中社会科学教科書交換調査会議，北京，1993年9月11日）「国際化時代の歴史学習」（福島県教育センター小学校経験者研修社会講座，1993年10月21日），⑧「伊藤博文——立憲政治を定着させた開明派指導者」（『日本史を変えた人物200人』，歴史読本38—18，368～369頁，新人物往来社，1993年9月），「藤木先生を偲ぶ」（日本史の研究161，山川出版社，1993年6月），「真の国際化とは」（文化会議292，1頁，日本文化会議，1993年10月），「〈憲法を考える〉天皇機関説か主権説か——明治憲法の軌跡」（This is 読売4—9，262～269頁，読売新聞社，1993年12月），Japan in Modern History, Japanese School Textbooks, Primary School——Introduction, pp. 9～16, ISEI, 1993, 「国際化の中で」（教養学部報382，東京大学教養学部，1994年2月9日）。

中見 立夫

③「日本にあったチベット語・満洲語・モンゴル語大蔵経をめぐる」（神田信夫編『日本所在清代檔案の諸相』，東方書店，1993年7月，105～118頁），「地域概念の政治性」（溝口雄三・浜下武志・平石直昭・宮嶋博史編『アジアから考える [1]：交錯するアジア』，東京大学出版会，1993年9月，273～295頁），「ロシアと中国のはざままで——モンゴル」（山内昌之編『二十一世紀の民族と国家，新しい地域像を探る』，日本経済新聞社，1993年10月，169～177頁），「関于清末内蒙古的一部史料——汪国鈞著《内蒙古紀聞》」（趙令志訳）（『慶祝王鍾翰先生八十寿辰學術論文集』，瀋陽・遼寧大学出版社，1993年6月，594～602頁），“Qaisan’s Secret Letters from Urga”（『蒙古文化国際學術研討会論文集』，台北・蒙蔵委員会，1993年10月，375～379頁），「“北東アジア”からみた“東アジア”」（国際交流62 [特集・東アジアという地域世界]，76～80頁，1993年11月），「モンゴルの独立と国際関係」（溝口雄三・浜下武志・平石直昭・宮嶋博史編『アジアから考える [3]：周縁からの歴史』，東京大学出版会，1994年1月，79～106頁），「汪国鈞著「内蒙古紀聞」をめぐる」（松村潤先生古稀記念論文集編纂委員会編『松村潤先生古稀記念：清代史論叢』，汲古書院，1994年3月，393～408頁），④「中国蒙古史学会第8回大会と第34回国際アジア・北アフリカ研究会議」（満

族史研究通信 3, 45~57頁, 満族史研究会, 1993年12月), 「【研究所活動・共同研究プロジェクト】東アジアの社会変容と国際環境, 平成5年度第一回(通算第八回)研究会, シンポジウム: モンゴル史料の諸問題」(通信80, 37~39頁, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1994年3月), ⑤「加藤直人著「清代新疆の遣犯について」」(法制史研究43, 400~402頁, 法制史学会年報, 1994年3月), ⑦「関于汪国鈞著《内蒙古紀聞》与羅布桑却丹著《蒙古風俗鑑》的關係」(中国蒙古史学会会員大会暨第八次学術討論会, 1993年7月27日, 呼和浩特), “On Wang Guojin’s Inner Mongolia: A Memoir”, (the 34th International Congress of Asian and North African Studies, 1993年8月24日, Hong Kong), ⑧「瘠土に咲かそう燎乱の花」(『日本植民地文化運動資料(3)・【復刻版】取書月報; 出版案内』, 緑蔭書房, 1993年6月), 「【巻頭言】“東北アジア”への接近」(NEWSLETTER 5, 1~2頁, 近現代東北アジア地域史研究会, 1994年3月), 「“正統”の証明」(『異文化との出会い——アジア・アフリカのフィールドノートから』, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1994年3月, 164~166頁)。

西江 清高

③「西周式土器成立の背景(下)」(東京大学東洋文化研究所紀要123, 1~110頁, 1994年2月), ⑦「商代的関中地区」(鄭州商城與殷商文明国際研討会, 1993年8月16日)。

原 實

③“A Note on the Ancient Indian Oath(3)”(『季羨林教授八十華誕紀念論文集』, pp. 51~65, 江西人民出版社, 南昌, 1991), “A Note on Dhammapada 97” (*Indo-iranian Journal* 35, Special Issue in Honour of K. R. Norman, pp. 179~191, Dordrecht, 1992), “Pāśupata Studies I” (*Ritual and Speculation in Early Tantrism*; Studies in Honour of André Padoux, ed. by T. Goudriaan, pp. 209~226, Albany 1992), “Sradhā in the Sense of Desire” (*Asiatische Studien* 46~1, Etudes bouddhiques offertes a Jacques May, pp. 180~194, Bern 1992), “A Note on the Ancient Indian Oath(4)” (*Annals of the Bhandarkar Oriental Research Institute*, Amrtamahotsava Volume, pp. 251~261, Poona 1993), 「地獄に留まろうとする王の物語」(東方8, pp. 75~89, 1992), 「Sila 研究(名詞連合)」(補)(印度哲学仏教学7, pp. 18~23, 1992), 「Mārceta 四百讚より」(塚本啓祥教授還暦記念論文集『知の邂逅——仏教と科学』pp. 285~297, 1993), 「涙」(東洋の思想と宗教10, 早稲田大学東洋哲学学会, pp. 1~20, 1993), ⑤“C. D. Collins, The Iconography and Ritual of Ślva at Elephanta <Albany 1988>”

(*Indo-Iranian Journal* 36, pp. 68~71, 1993), “André Padoux, Vac, The Concept of the Word in Selected Hindu Tantras <Albany 1990>”, (*Indo-Iranian Journal* 36, pp. 350~356, 1993), 「『ヤン・ホンダ選集, 第六巻』(東洋学報75—3・4, pp. 01~07, 東洋文庫, 1994年3月), 「カルトネン著『初期ギリシャ文献中のインド』(東洋学報75—3・4, pp. 07~012, 東洋文庫, 1994年3月), ⑦ “On the phrase dhamani-samtata,” (University of Lausanne <Switzerland> 4 June 1993), “Hindu concept of tears, bāṣpa and aśru” (University of Hamburg <Germany> 2 July 1993), ⑧ “Notas Breves “Junjiro Takakusu”” (*Revista de Estudios Budistas*, Asociacion Latinoamericana de Estudios Budistas 5 (Argentine, Buenos Aires, pp. 137~141, 1993), 「辻直四郎先生の人と業績」(慶応義塾大学言語文化研究所紀要24, pp. 27~41, 1992)。

藤枝 晃

⑥藤枝晃著, 辛徳勇訳「李継遷の興起與東西交通」(劉俊文編『日本学者研究中国史論著選訳』北京, 中華書局, 443~462頁, 1993年10月), ⑧「間に合った顛末」(『宮崎市定全集』第23巻月報, 岩波書店, 1~6頁, 1993年10月刊), 「Hakan Wahlquist 氏との対談」(『京都新聞』1993年11月10日夕刊“金曜フォーラム”, 第1及10面)。

古屋 昭弘

③「『正字通』和十七世紀的贛方音」(『中国語文四十周年紀念刊文集』, 商務印書館, 144~156頁, 1993年10月), 「張自烈『增補字彙』について」(『中国文学研究』19, 97~108頁, 早稲田大学, 1993年12月), 「關於『拍掌知音』的成書時間」(『中国語学研究開篇』11, 110~111頁, 好文出版, 1993年12月), ⑦「明の遺民・張自烈と『正字通』」(早大中国文学会第18回春季大会, 1993年6月18日), 「『字彙』与明代吳方音」(漢語史研究会第2回, 1994年3月17日)。

本庄 比佐子

⑥「ゴ・シャオタン著, 張聞天の思い出」(近代中国研究彙報16, 33~42頁, 東洋文庫, 1994年3月)。

水野 善文

③「『ギータ・ゴヴィンダ』の文学史上の位置および第4章抄訳」(インド音楽研究, 第4号, 6~24頁, インド音楽研究会, 1994年3月), ⑤「H. ドゥヴィヴェーディー著, 坂田貞二, 宮元啓一, 橋本泰元訳『インド・大地の讃歌——中世民衆

文化とヒンディー文学』(東方, 第9号, 252~253頁, 東方学院, 1993年12月),
⑦「インドの宗教事情」(万国宗教学会議百周年記念インド大会に向けての学習会,
1993年6月18日), ⑧「〈シンポジウム〉『ギター・ゴーヴィンダ』をめぐって」(イ
ンド音楽研究会・インド絵画研究会共催のセミナー『インド世界の視覚表現と聴
覚表現』, 1993年9月18・19日)。

三根谷 徹

①『中古漢語と越南漢字音』(汲古書院, 4+543頁, 1993年5月)。

宮崎 修多

②『学海日録 別巻』(学海日録研究会編, 岩波書店, 153+256頁, 1993年6月),
③「無水余滴」(国語と国文学70-5, 23~34頁, 東京大学国語国文学会, 1993
年5月), 「大田南畝における雅と俗」(『日本の近世12文学と美術の成熟』, 中央
公論社, 189~230頁, 1993年5月), 「学海双魚」(成城国文学論集22, 131~187頁,
成城大学大学院文学研究科, 1994年3月)。

護 雅夫

③「アナトリア考古学の諸問題点」(アナトリア考古学研究 Vol. III: カマン・カ
レホユック3, 1~4頁, 中近東文化センター, 1994年2月), ⑦「アナトリア
考古学の諸問題点」(トルコ調査報告会, 1994年3月6日), 「イェニセイ碑文に
見える『8本脚の財産(家畜)』について」(日本学士院, 1994年4月12日), 「日
ト間の友好関係の未来像」(日本トルコ文化協会, 1994年7月3日)。

矢澤 利彦

①『西洋人の見た中国官僚』(東方書店, 212頁, 1993年7月)。

柳田 征司

①『室町時代を通して見た日本語音韻史』(武蔵野書院, 1145頁, 1993年6月),
③「『の』の展開, 古代語から近代語への」(日本語学12-11, 15~22頁, 1993年
11月), 「静嘉堂文庫蔵『二十四孝詩註』について」(『継承と展開2 近代語の成立
と展開』, 和泉書院, 189~216頁, 1993年11月), 「虎明本狂言備忘」(愛媛国文と
教育25, 31~34頁, 1993年12月), 「虎明本狂言詞章における語形が注目される語
詞の若干について」(愛媛大学教育学部紀要第II部人文・社会科学26-2, 41~
47頁, 1994年2月), ⑦「母音優位・子音優位」(国語学会平成5年度秋季大会,
1993年10月30日)。

柳田 節子

③「宋代の女戸」(『柳田節子先生古稀記念 中国の伝統社会と家族』, 89~105頁, 汲古書院, 1993年5月), ⑧「徽宗梓宮」(歴史と地理456, 39~40頁, 山川出版社, 1993年8月), 「わだつみ人の伝言」(2) (東京新聞8月12日号), 「家永三郎氏との新年対談」(『教科書裁判ニュース』309, 1994年1月)。

山崎 元一

③「古代インドの王権——四王の碑文を史料として——」(国学院雑誌94—6, 40~56頁, 国学院大学, 1993年6月), 「仏教改宗運動の系譜——ナラスとアンバードカル——」(辛島昇編『ドラヴィダの世界』, 東京大学出版会, 386~399頁, 1994年3月), ⑧「『仏教乃要諦』との出会い」(栃木史学8, 147~149, 国学院大学栃木短期大学, 1994年3月)。

山根 幸夫

②『新編明代史研究文献目録付韓国明代史文献目録』(山根幸夫編・発行, 汲古書院発売, B5—313頁, 1993年11月), ③「井上翠と中国」(近代中国研究彙報15, 1~16頁, 東洋文庫, 1993年3月), 「胡文煥編『官途資鑑』について」(汲古23, 114~119頁, 古典研究会, 1993年7月), 「満洲建国大学再考」(駿台史学89, 35~56頁, 駿台史学会, 1993年10月), 「最近十年間日本の明史研究」(『第2届明清史国際学術討論会論文集』, 27~33頁, 天津人民出版社, 1993年3月), 「常熟的曾氏——從明末到清初」(『羅香林教授紀念論文集』(上), 251~284頁, 新文豊出版公司, 1992年12月), 「明及清初華北の市集と紳士豪民」(欒成顯訳, 『日本学者研究中国史論著選訳』6, 明・清, 341~370頁, 中華書局, 1993年9月), 「“満洲”建国大学と日本」(周啓乾訳, 抗日戦争研究1993—4, 120~128頁, 中国抗日戦争史学会, 1993年11月), ⑤「王春瑜著『明朝酒文化』」(東洋学報74—3・4, 191~197頁, 東洋文庫, 1993年3月), 「趙軍著『辛亥革命と大陸浪人』」(東洋学報74—3・4, 205~212頁, 東洋文庫, 1993年3月), 「楊正泰校注『天下水陸路程・天下路程図引・客商一覽醒迷』」(東洋学報75—1・2, 147~153頁, 東洋文庫, 1993年10月), 「南炳文著『南明史』」(東洋学報75—1・2, 153~160頁, 東洋文庫, 1993年10月), 「山西省社会科学院家譜資料研究中心編『中国家譜目録』」(東洋学報75—3・4, 203~209頁, 東洋文庫, 1994年3月), 「陳柏堅主編『広州外貿易両千年』」(東洋学報75—3・4, 209~215頁, 東洋文庫, 1994年3月), ⑦「明代路程書考」(明史国際学術討論会, 1993年8月17日, 西安人民大廈), 「日明文化交流研究入門」(南開大学歴史研究所, 1993年8月23日, 天津), ⑧「1992年明代史論文目録」(明代史研究21, 76~79頁, 明代史研究会, 1993年4月), 「1993年

韓国明清史論文要目」(明代史研究21, 79~80頁, 明代史研究会, 1993年4月), 「編集後記」(汲古23, 136~137頁, 古典研究会, 1993年7月), 「早稲田と中国人留学生」(『古本共和国——早稲田古書店街連合目録』8, 14~15頁, 早稲田古書店街連合会, 1993年9月), 「山根治先輩のこと」(山根正彦編『思い出——故山根治を偲ぶ』46~47頁, 私家版, 1993年11月), 「編集後記」(汲古24, 29頁, 古典研究会, 1993年11月), 「水原明窗著『朝鮮近代郵便史』を読んで」(郵趣48-1, 付録4頁, 日本郵趣協会, 1994年1月)。

渡辺 宏

③「職方外紀の五巻本と六巻本」(東洋文庫書報25, 38~68頁, 東洋文庫, 1994年3月), ⑧「マルコ・ポーロとスバゲティ, アイスクリーム」(大モンゴル3, 大いなる都, 巨大国家の遺産, NHK取材班編, 角川書店, 90~91頁, 1992年9月), 「バチカンの古漢籍」(日本古書通信759, 10頁, 日本古書通信社, 1992年10月)。

財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

(平成6年3月31日現在)

研究員名	主たる研究課題
荒松雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池田温	中国古代・中世史, 前近代東亜文化交流史
池端雪浦	フィリピン史
石井米雄	タイ史・三印法典の研究
石塚晴通	日本語の歴史的研究, 古代漢字文献学
石橋崇雄	清朝八旗制・内務府・満文史料
市古宙三	太平天国及び中国共産党の研究
上野英二	平安朝文学の研究
宇都木章	春秋時代政治史
梅村坦	ウイグル民族誌, 内陸アジア史
海野一隆	東洋地理学史の研究
太田幸男	秦墓竹簡の研究
小名康之	インド・ムガル朝史の研究
越智重明	漢魏晋南北朝史
岡田英弘	北アジア史
風間喜代三	印欧語の比較言語学的研究
片山章雄	中央アジア古代史の研究
加藤直人	清朝の民族統治政策・清朝檔案史料の研究
亀井孝	日本語の歴史的研究
川崎信定	チベット仏教の展開
神田信夫	清朝興起史
菊池英夫	唐宋時代の行政および法制 (特に軍制)
北村甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草野靖	宋代の手形紙幣と専売制
小松久男	中央アジア近代史
河野六郎	中期朝鮮語の研究
後藤明	イスラム社会と政治
後藤均平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐伯富	中国山西商人の研究
佐竹昭広	中世日本文学の史的研究
佐藤次高	西アジア・イスラム史
酒井憲二	日本語の史的研究
志茂碩敏	13・4世紀モンゴル政権の中核・中核について
斯波義信	中国社会経済史

研究員名	主たる研究課題
滋賀秀三	中国法制史の通史的研究
蒨勇造	南アラビア古代史の研究
清水宏祐	セルジューク朝時代のイラン
杉山正明	モンゴル帝国史の研究
鈴木立子	元朝における社会経済史
関野雄	中国考古学の研究
田中時彦	日本の政治的近代化の研究
田中正俊	中国近代社会経済史
クリスチャン A・ダニエルス	清代社会経済史、中国技術史
立川武蔵	チベット密教教理の研究
武田幸男	朝鮮古代・近世史の研究
千葉熨	宋代の外戚
竺沙雅章	中国宗教社会史
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
土肥義和	西域出土漢文文書の研究
柄尾武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
鳥海靖	日本近現代史、とくに明治立憲制の形成発展の研究
中嶋敏	宋代史
永田雄三	オスマン帝国社会経済史
中見立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
花田宇秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史研究
八尾師誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命
林望	近世印刷文化の史的研究
原實	インド古代文学の研究
福田洋一	仏教論理学研究
藤枝晃	敦煌・トルファン資料の研究
古屋昭弘	中国語の音韻史的研究
星実千代	現代チベット口語の研究
本庄比佐子	1920～30年代中国政治史
本田實信	フラグ・ウルス国政史
松濤誠達	インド古代神話学
松村潤	東北アジア民族史
松本明	中国隋唐政治制度史
三浦徹	イスラム都市社会史の研究
三根谷徹	漢字音の研究

研究員名	主たる研究課題
御 牧 克 己	チベット宗教書の研究
宮 崎 修 多	近世近代漢詩文の研究
護 雅 夫	古代テュルク民族の信仰，トルコ学
森 岡 康	李朝中期の政治及び社会史の研究
矢 澤 利 彦	西洋人の見た中国事情
柳 田 征 司	日本語の歴史的研究
柳 田 節 子	宋代社会経済史研究
山 内 弘 一	李朝史，朝鮮儒教
山 口 瑞 鳳	チベット史，チベット語文法，チベット仏教
山 口 謠 司	六朝義疏学における音韻及び訓詁学的研究
山 崎 元 一	インド古代史
山 根 幸 夫	明清社会経済史，近代中日関係史
山 本 達 郎	ベトナム・中国関係史の研究，敦煌発見の籍帳類の研究
和 田 博 徳	明清時代社会経済史の研究
渡 辺 宏	中近世東西交渉史の研究
渡 辺 紘 良	宋代社会史の研究

財団法人東洋文庫・外国人研究者受入略表

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
S. 37年度				
Annemarie Von Gabain	Prof., Univ. Hamburg.		S. 37年 9月よ り約1ヶ年間	東洋文庫の招請 東洋文庫研究員 として受入
S. 38年度				
Annemarie Von Gabain	(前出)		S. 37年 9月よ り約1ヶ年間	S. 38年 9月離 日
S. 39～42年度 (該当者ナシ)				
S. 43年度				
崔 鶴根	ソウル大学副教 授		S. 43～44年度	
George Weys	ロンドン大学		S. 43～44年度	
関 斗基	崇実大学校教授		(未詳)	
李 承旭	檀国大学校副教 授		(未詳)	
関 炳基	高麗大学校亜細 亜問題研究所日 本研究部門科長		(未詳)	
Hilda Chen- Apuy	(コスタリカ)	日本の仏教美術の研 究	S. 43年 4月～ 同年 5月	ユネスコ・フェ ローの受入
李 喜昌	(大韓民国)	出版技術の研究	S. 43年 8月～ 同年 9月	ユネスコ・フェ ローの受入
黄 元九	(大韓民国)	李朝期の燕行録の研 究	S. 44年 3月～ 同年 7月	ユネスコ・フェ ローの受入

氏 名	受入年次現職	研 究 課 題	期 間	備 考
S.44年度				
崔 鶴根	(前出)		S.43~44年度	
George Weys	(前出)		S.43~44年度	
黄 元九	(前出)	(前出)	S.44年3月~ 同年7月	(前出)
Ilya Foniakov	(ソ連)	日本文化の研究	S.44年6月~ 同年12月	ユネスコ・フェ ローの受入
Satyawati Suleiman	(インドネシア)	考古学及び遺跡保存 の研究	S.44年9月~ 同年10月	ユネスコ・フェ ローの受入
曹 永和	台湾大学図書館 職員		S.44~45年度	
Gülçin Candarioğlu	イスタンブール 大学助手	20世紀におけるトル コ・日本・中国関係 史	S.44年10月1 日~同45年9月 30日	外国人奨励研究 員として受入 ユネスコの客員 研究員としては S.44年9月よ り45年7月まで
Walter Simon	ロンドン大学名 誉教授	チベットの歴史と文 化の系統	S.45年2月1 日~同年4月14 日	日本学術振興会 外国人流動研究 員として受入
S.45年度				
Gülçin Candarioğlu	(前出)	(前出)	S.44年10月1 日~45年9月30 日	(前出)
Walter Simon	(前出)	(前出)	S.45年2月1 日~同年4月14 日	(前出)
曹 永和	(前出)		S.44~45年度	
Do Ba Vinh	(ヴェトナム)	仏教美術の研究	S.45年5月~ 同年7月	ユネスコ・フェ ローの受入

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
Soubert Son	(カンボジア)	文化遺跡・遺品の保存に関する研究	S.45年10月～11月	ユネスコ・フェローの受入
Harold Waller Bailey	ケンブリッジ大学名誉教授	インド・イラン文学	S.46年3月27日～同年5月7日	日本学術振興会外国人流動研究員として受入
金 容 九	ソウル大学校文理工科大学講師		S.44～45年度	
姜 信 沆	成均館大学校副教授		(未詳)	
鄭 良 婉	ソウル大学校教養課程部講師		(未詳)	
S.46年度				
Harold Waller Bailey	(前出)	(前出)	S.46年3月27日～同年5月7日	(前出)
金 容 九	(前出)		S.45～46年度	
宋 敏	聖心女子大学校副教授		S.46～47年度	
S.47年度				
宋 敏	(前出)		S.46～47年度	
金 榮 禎	梨花女子大学大学院長		(未詳)	
李 男 徳	梨花女子大学教授		(未詳)	
金 文 経	崇田大学校副教授		(未詳)	
成 百 仁	明知大学副教授		(未詳)	
沈 雲 龍	(台湾)中央研究院近代史研究所兼任研究員		(未詳)	

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
劉鳳翰	(台湾)中央研究院近代史研究所		(未詳)	
陳存恭	(台湾)中央研究院近代史研究所		(未詳)	
K. P. K. Whitaker	ロンドン大学		(未詳)	
S. 48年度				
Vinh Phoi	(ヴェトナム)	東洋美術研究	S. 48年 6月22日～同年9月3日	ユネスコ・フェローの受入
S. 49年度				
Kernial S. Sandhu	(シンガポール)		S. 50年 3月16日～同月23日	ユネスコ・フェローの受入
S. 50年度				
Amin Sweeney	(マレーシア)		S. 50年 9月16日～同月30日	ユネスコ・フェローの受入
Annemarie von Gabain	(前出)		(未詳)	
Evgenij Ivanovich Kychanov	ソビエト連邦国立科学アカデミー東洋学研究所レニングラード支所副所長		(未詳)	
S. 51年度				
Wu Chiyu [呉其昱]	フランス国立科学院研究所研究員		(未詳)	便宜供与

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
Amin Sweeney			S. 51年 7月 1日～同年12月31日	ユネスコ・フェローの受入
A. B. Lopian	インドネシア学術会議歴史部門長		S. 51年10月25日～11月 9日	ユネスコ・フェローの受入
Luciano Petech	ローマ大学教授	日本所蔵チベット歴史文献及びネパール・サンスクリット文献の収集・整理・研究	S. 51年12月～52年 3月の4ヶ月間	日本学術振興会外国人招聘研究員として受入
陳 志 讓	カナダ・トロント・ヨーク大学教授		S. 52年 2月～8月	
Leslie E. Bauzon	Asso. Prof. and Chairman, Dept. of History, College of Arts and Sciences, University of the Philippines		(未詳)	ユネスコ・フェローの受入
Srisakra Vallibhotama	Acting Head, Dept. of Anthropology, Fac. of Archaeology, Silpakorn Univ. Thailand		(未詳)	ユネスコ・フェローの受入
S. 52年度				
陳 志 讓	(前出)		S. 52年 2月～8月	
李 佑 成	韓国成均館大学教授		S. 52年 7月～12月	

氏 名	受入年次現職	研 究 課 題	期 間	備 考
Lee Poh Ping	マレーシア マラヤ大学教授		S .52年 9 月15 日～26日	ユネスコ・フェ ローの受入
Edilberto C. De Jesus	アジア経営大学 院助教授		S .53年3月27日 ～4月13日	ユネスコ・フェ ローの受入
S .53年度				
Edilberto C. De Jesus	(前出)		S .53年3月27日 ～4月13日	ユネスコ・フェ ローの受入
文 曝 鉉	韓国慶北大学校 助教授	李朝における地方自 治組織および農村社 会経済語彙の研究	S .53年 8 月以 降15ヶ月間	国際交流基金の 招聘
黄 汎 江	韓国檀国大学校 教授	古代及び中世におけ る韓国・日本の神 話, 並びに文学の比 較研究とその資料調 査	S .53年 9 月以 降2年間	檀国大学校の依 頼
Pierre- Etienne Will	フランス社会科学 高等研究院研 究員	明・清社会経済史研 究	S .53年 9 月～ 10月の40日間	日仏科学協力事 業研究者交換計 画の依頼
Stuart R. Schram	イギリス・ロン ドン大学教授・ 現代中国研究所 長	毛沢東の政治思想等 の研究	S .53年11月～ 同54年 7 月まで	
辛 勝 夏	韓国檀国大学校 助教授	近代における東北ア ジア史研究	S .53年12月以 降4ヶ月間	
Akin Rabibhadana	アキン＝ラビバ ダナ, タマサッ ト大学タイ＝カ ディ研究所長		S .53年12月 1 日～15日	ユネスコ・フェ ローの受入
Adrian Bernaro Lapian	インドネシア国 立経済社会研究 所研究員		S .54年 2 月11 日～25日間	ユネスコ・フェ ローの受入

氏 名	受入年次現職	研 究 課 題	期 間	備 考
Jon S. T. Quah	シンガポール大 学政治学部専任 講師		S .54年 3 月 7 日～21日間	ユネスコ・フェ ローの受入
S. 54年度				
文 暉 鉉	(前出)	(前出)	S .53年 8 月以 降15ヶ月間	S .54年11月帰 国
黄 浪 江	(前出)	(前出)	S .53年 9 月～ 55年 8 月	(前出)
Stuart R. Schram	(前出)	(前出)	S .53年11月～ 54年7月	S .54年 7 月帰 国
全 漢 昇	香港新亜研究所 教授	東洋文庫所蔵中国経 済史数量資料の調査 研究	S .55年 3 月以 降 6 ヶ月	S .54年度国際 交流基金の招聘
王 德 毅	台湾大学教授	元・明・清名人伝記 資料索引等の作成に かかる調査研究	S .54年 6 月以 降 3 ヶ月	S .54年 9 月帰 国
Tenpa Gyaltsen	Gomang 寺ゲル ク派学僧	東洋文庫チベット研 究委員会による『チ ベット語文語辞典』 編纂協力	S .54年度～ 59年 7 月, H. 元年 5 月以降招 聘中	東洋文庫招聘研 究員として受入
S. 55年度				
全 漢 昇	(前出)	(前出)	S .55年 3 月以 降 6 ヶ月	(前出)
黄 浪 江	(前出)	(前出)	S .53年 9 月～ 55年 8 月	
Tenpa Gyaltsen	(前出)	(前出)	S .54年度～ 59年 7 月, H. 元年 5 月以降招 聘中	(前出)
Ismail Hussein	マラヤ大学マラ ヤ研究科教授		S .56年 3 月14 日～同月28日	ユネスコ・フェ ローの招聘

氏 名	受入年次現職	研 究 課 題	期 間	備 考
S. 56年度				
Tenpa Gyaltzen	(前出)	(前出)	S. 54年度～ 59年7月, H. 元年5月以降招 聘中	(前出)
李 成 珪	韓国ソウル大学 校助教授	中国古代史の研究お よび関係資料の調査	S. 56年7月20 日以降, 1ヶ月	
今枝 由郎	フランス国立科 学研究センター 研究員	『チベット研究文献 目録』(～1975年)の 作成	S. 56年10月1 日以降100日間	
Lim Pui Huen	東南アジア研究 所図書館館長		S. 56年10月20 日～11月2日	ユネスコ・フェ ローの招聘
S. 57年度				
Tenpa Gyaltzen	(前出)	(前出)	S. 54年度～ 59年7月, H. 元年5月以降招 聘中	(前出)
周 遠 廉	中国社会科学院 歴史研究所副研 究員	旧満洲檔の研究	S. 57年4月以 降120日間	S. 57年度日本 学術振興会の招 聘
李 佑 成	韓国元成均館大 学校教授	律令制をはじめとす る韓国前近代史研究	S. 57年6月以 降9ヶ月間	S. 57年度国際 交流基金の招聘
関 斗 基	ソウル大学校教 授	日本文化伝統研究— 中国文化伝統研究へ の比較史的アプロ ーチのために—	S. 57年6月22 日以降2ヶ月間	
金 公 七	済州大学校助教 授	日本語音韻論及び韓 日両語文法の対照的 研究	S. 57年8, 9月 の2ヶ月間	国際交流基金の 依頼

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
Bienvenido Lumbera	Prof., Dept. of Filipino and Philippine Literature, University of Philippines, Quezon City		S. 58年 3月14日～同月27日	ユネスコ・フェローの招聘
S. 58年度				
Tenpa Gyaltsen	(前出)	(前出)	S. 54年度～59年 7月, H. 元年 5月以降招聘中	(前出)
張 承志	中国社会科学院民族研究所助理研究员	モンゴル帝国史の研究——中央アジア諸族の動向を中心として	S. 58年 5月29日以降 1ヶ年間	国際交流基金の招聘
Somboon Suksamran	Asso. Prof. Faculty of Political Science, Chulalongkorn Univ. & Secretary-General, Social Science Association of Thailand		S. 59年 2月12日～同24日	ユネスコ・フェローの招聘
S. 59年度				
Tenpa Gyaltsen	(前出)	(前出)	S. 54年度～59年 7月, H. 元年 5月以降招聘中	(前出) S. 59年 7月 8日帰国
張 承志	(前出)	(前出)	S. 58年 5月29日以降 1ヶ年間	(前出) S. 59年 6月10日帰国

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
丁 果	上海師範大学歴史系助手	近代日中関係史及び日本近現代史の研究	S .59年10月～H .2年度	中国政府の派遣による(S .59年10月～H .元年度), 私費(H .2年度)
Sonam Choephe	(前チベット自治区師範大学チベット語教授)	東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力	S .60年3月以降約4ヶ年間	東洋文庫招聘研究員として受入東洋文庫チベット研究委員会の招聘
Kuntowijoyo	Lecturer, Dept. of History, Faculty of letters, Universitas Gadjah Mada, Yogyakarta, Indonesia (Gadjah Mada Univ.)		S .60年1月10日～同24日	ユネスコ・フェローの招聘
S .60年度				
姜 鎮慶	中国社会科学院歴史研究所副研究員	明清社会経済史——特に土地制度, 税制, 商品流通問題を中心として——	S .60年7月～62年5月	国際交流基金の招聘(S .60年7月以降1ヶ年間), 自費延長11ヶ月, S .62年6月5日帰国
丁 果	(前出)	(前出)	S .59年10月～H .2年度	(前出)
林 恩顕	(台湾)政治大学教授	中国辺疆研究の現状	S .60年8月以降1ヶ年間	台北中国国家科学委員会の派遣
郭 鳳明	(台湾)文化大学副教授	幣原外相の対中国政策(1924～1927)	S .60年9月以降6ヶ月間	台北中国行政院の派遣 S .61年2月27日帰国

氏 名	受入年次現職	研 究 課 題	期 間	備 考
Sonam Choephel	(前出)	(前出)	S .60年 3 月～ H .元年 3 月	(前出)
S .61年度				
姜 鎮 慶	(前出)	(前出)	S .60年 7 月～ 62年 5 月	(前出)
丁 果	(前出)	(前出)	S .59年 10 月～ H .2 年度	(前出)
林 恩 顕	(前出)	(前出)	S .60年 8 月以 降 1 ヶ年	S .61年 7 月帰 国
Khor Yoke Lim	Lecturer, Mass communication Programme, School of Humanities, Universiti Sains Malaysia		S .62年 3 月 14 日～同28日	ユネスコ・フェ ローの招聘
Sonam Choephel	(前出)	(前出)	S .60年 3 月～ H .元年 3 月	(前出)
S .62年度				
姜 鎮 慶	(前出)	(前出)	S .60年 7 月～ 62年 5 月	(前出)
丁 果	(前出)	(前出)	S .59年 10 月～ H .2 年度	(前出)
樂 成 顕	中国社会科学院 歴史研究所助理 研究員	明清社会経済史研究 ——特に魚鱗図冊制 度を中心として——	S .62年 5 月 11 日 ～ 10 月 10 日 の 5 ヶ月間	日本学術振興会 の招聘
Dad al-Hakim	Prof., Center of Historical Documents, Damascus. (Syria)	オスマン朝時代にお けるシリア社会の史 的研究	S .62年 4 月 19 日～ 5 月 18 日 の 30日間	日本学術振興会 の招聘
Sonam Choephel	(前出)	(前出)	S .60年 3 月～ H .元年 3 月	(前出)

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
Rudrangshu Mukherjee	Lecturer, History Dept., Calcutta Univ.		S .63年 3月13日～同年 3月27日	ユネスコ・フェローの招聘
S.63年度				
唐文基	福建師範大学歴史系副教授	明代社会経済史の研究——特に土地所有関係と徭役制度について——	S .63年 6月27日～H .元年 6月26日 1ヶ月間	霞山会及び中国教育国際交流協会の依頼
程万里	北京大学亜非研究所教授	第2次世界大戦後の日中経済関係の研究	S .63年 9月15日～10月14日 1ヶ月間	野村学芸財団の招聘
呉金成	ソウル大学校人文大学東洋史学科教授	明代紳士の研究	S .63年 7月4日以降 3週間	ソウル大学の派遣
丁果	(前出)	(前出)	S .59年10月～H .2年度	(前出)
Sonam Choephel	(前出)	(前出)	S .60年 3月～H .元年 3月	(前出)
照那斯圖	中国社会科学院民族研究所所長		S .63年11月7日～同11月28日	ユネスコ・フェローの招聘
カムシン・シーノク	Journalist, タイ国作家協会役員		S .63年11月7日～同11月27日	ユネスコ・フェローの招聘
H.元年度				
唐文基	(前出)	(前出)	(前出)	(前出)
馮佐哲	中国社会科学院歴史研究所副研究員	清代前期日中経済・文化交渉史の研究	H .元年 5月10日～8日まで92日間	日本学術振興会の依頼

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
丁 果	(前出)	(前出)	S .59年10月～ H .2年度	(前出)
Tenpa Gyaltsen	ゲールク派・デ ブン寺ゴマン学 堂長	(前出)	S .54年度～59 年7月, H .元 年5月以降招聘 中	チベット研究委 員会の招聘東洋 文庫招聘研究員 として受入
李 格	中国社会科学院 歴史研究所助理 研究員	清初の政治史および 清初人物・伝記の研 究	H .元年以降 1ヶ年間	中国社会科学院 歴史研究所の依 頼・私費
B. D. Dangol	ネパール国立文 書館館長・主任 研究員		H .元年6月15 日～6月27日	ユネスコ・フェ ローの招聘
林 松	中国中央民族学 院副教授		H .元年10月20 日～10月30日	ユネスコ・フェ ローの招聘
H .2年度				
周 清澍	中国内蒙古大 学・蒙古史研究 所教授	蒙古帝国の形成過程	H .2年以降90 日間	日本学術振興会 の招聘
丁 果	(前出)	(前出)	S .59年10月～ H .2年度	(前出)
Tenpa Gyaltsen	(前出)	(前出)	S .54年度～59 年7月, H .元 年5月以降招聘 中	(前出)
李 格	(前出)	(前出)	H .2年2月以 降2ヶ年間	(前出)
趙 軍	中国華中師範大 学歴史研究所副 教授	辛亥革命時期におけ る日中関係史—とく に孫文と日本の関係 を中心として—	H .2年9月以 降1ヶ年間	私費
張 承志	中国社会科学院 民族研究所元助 理研究員・作家	中国イスラムに関す る共同研究	H .2年11月以 降1ヶ年間	東方学術交流協 会の依頼

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
余 振 貴	中国寧夏社会科学院中東イスラム研究所所長		H. 2 年 11 月 25 日～同 12 月 4 日	ユネスコ・フェローの招聘
呉 宏 一	(台湾)中央研究院中国文哲研究所所長		H. 3 年 3 月 29 日～同年 4 月 10 日	ユネスコ・フェローの招聘
林 慶 彰	(台湾)中央研究院中国文哲研究所副教授		H. 3 年 3 月 29 日～同年 4 月 10 日	ユネスコ・フェローの招聘
Dorje Cedan (多傑才旦)	中国藏学研究中心総幹事		H. 3 年 11 月 10 日～同 11 月 24 日	ユネスコ・フェローの招聘, 財団法人民族学振興会との協力による
Lapian, Adrian Bernard	Senior Researcher, Centre for Social and Cultural Studies, Indonesian Institute of Sciences (LIPI), Jakarta; Prof. of History, Faculty of letters, Univ. of Indonesia		H. 3 年 8 月 17 日～8 月 24 日	ユネスコ・フェローの受入, 日本学術振興会の招聘
H. 3 年度				
王 冀 青	中国蘭州大学歴史系講師	敦煌及び東トルキスタン出土文献の総合的研究	H. 3 年 7 月以降 10 ヶ月間	日本学術振興会の招聘
趙 軍	中国華中師範大学歴史研究所副教授	辛亥革命時期における日中関係史—特に孫文と日本の関係を中心として—	H. 2 年 9 月以降 2 ヶ年間	私費

氏 名	受入年次現職	研 究 課 題	期 間	備 考
Tenpa Gyaltzen	(前出)	(前出)	S. 54年度～59 年7月, H. 元 年5月以降招聘 中	(前出)
李 格	(前出)	(前出)	H. 2年2月以 降2ヶ年間	(前出)
張 承志	(前出)	(前出)	H. 2年11月以 降2ヶ年間	(前出)
Rebiya Tohti	中国全国人民代 表大会民族委員 会少数民族問題 議案委員	ウイグルの歴史と文 化	H. 3年度1ヶ 年間	私費
Mattani Mojdara Rutnin	Prof, Drama Dept., Faculty of Fine and Applied Arts, Thammasat Univ. Bangkok. (Thailand)		H. 3年10月11 日～同11月2日 H. 4年3月29 日～同4月4日	ユネスコ・フェ ローの招聘, 国 際交流基金の招 聘 ユネスコ・フェ ローの招聘, 国 際交流基金の招 聘
Duangruthai Pumipichet	Assistant, Thammasat Univ., Bangkok. (Thailand)		H. 3年10月11 日～同11月2日	ユネスコ・フェ ローの招聘, 国 際交流基金の招 聘
Malinee Dilokwanich	Prof. Chinese Language Dept., Faculty of Liberal Arts, Thammasat Univ., Bangkok. (Thailand)		H. 4年3月29 日～同4月4日	ユネスコ・フェ ローの招聘, 国 際交流基金の招 聘
H. 4年度				
Mattani Mojdara Rutnin	(前出)		H. 4年3月29 日～同年4月4 日	(前出)

氏 名	受入年次現職	研 究 課 題	期 間	備 考
Malinee Dilokwanich	(前出)		H. 4 年 3 月 29 日～同年 4 月 4 日	(前出)
南 炳 文	中国南開大学歴 史研究所教授	明代日中友好交流の 研究	H. 4 年 10 月 10 日～5 年 1 月 7 日	日本学術振興会 の招聘
Tenpa Gyaltzen	(前出)	(前出)	S. 54 年度～59 年 7 月, H. 元 年 5 月以降招聘 中	(前出)
趙 軍	(前出)	(前出)	H. 2 年 9 月以 降 3 ヶ年間	(前出)
張 承 志	(前出)	(前出)	H. 2 年 11 月以 降 2 ヶ年間 H. 4 年 11 月 16 日帰国	(前出)
Rebiya Tohti	(前出)	(前出)	H. 3 年度以降 2 年 7 ヶ月間	(前出)
王 冀 青	(前出)	(前出)	H. 3 年 7 月以 降 10 ヶ月間 H. 4 年 6 月帰 国	(前出) 2 ヶ月延長・私 費
林 慶 彰	(前出)		H. 4 年 11 月 22 日～同 12 月 4 日	台湾中央研究院 の派遣 ユネスコ・フェ ローの受入
許 政 雄	台湾中央研究院 中国文哲研究所 助理		H. 4 年 11 月 22 日～同 12 月 4 日	台湾中央研究院 の派遣 ユネスコ・フェ ローの受入
Mattani Mojdara Rutnin	(前出)		H. 5 年 3 月 15 日～同月 28 日	ユネスコ・フェ ローの受入 日本学術振興会 の招聘

氏名	受入年次現職	研究課題	期間	備考
H. 5年度				
Tenpa Gyaltzen	(前出)	(前出)	S. 54年度～59年7月, H. 元年5月以降招聘中	(前出)
趙 軍	(前出)	(前出)	H. 2年9月～5年10月	(前出)
陳 洪 真	北京鋼鉄研究総院研究員	中国冶金技術発達史——特に宋代經濟史における鉄・銅等技術史の研究	H. 5年度以降2ヶ年間	私費
マリア・サキム	新疆医学院講師	ウィグル医薬学史の研究	H. 5年4月1日～6年4月25日	日本医学関係奨学助成費
欧 陽 菲	北京工業大学講師	日中近現代における経営の比較的研究	H. 5年以降2ヶ年間	私費
徐 秉 運	韓国外務統一委員会立法審議官	韓日近現代外交史の研究	H. 5年8月以降1ヶ年間	韓国国会事務處の派遣費
梁 紫 紅	米国コロンビア大学大学院東アジア文化・言語学科 ph. D 候補	宋代經濟政策について	H. 5年10月12日～6年4月13日	フルブライトフェローシップの派遣費
周 振 鶴	復旦大学中国歴史地理研究所教授	19世紀欧・中・日歴史語彙の交流	H. 5年10月31日～6年2月28日	日本學術振興会の招聘, 1ヶ月間延長。私費

この「財団法人東洋文庫外国人研究者受入略表」では、海外からの外国人研究者の受入について、大正13年創立以来多くの海外の専門研究者の来館・利用の便宜供与をいたしているが、その来館・利用者の記録は、『東洋文庫十五年史』等の記録を検索しても古い頃のリストを見出すことができなかった。

また、ここに記録する長期受入リストでは、海外の専門研究者が東洋文庫の閲覧室を利用されたり、東洋文庫研究員と懇談されたり、なにがしかで東洋文庫を利用された場合でも、ここに掲げる長期受入のリストより除外した。また東洋文庫主催の特別講演会で講演された外国人研究者においても長期受入でない方は、この受入略表より除外した。

Ⅲ 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理 事 会

- 第287回 開催日 平成5年 6月8日(火曜日)
出席者 北村 甫, 石井米雄, 河野六郎, 斯波義信
委任状 市古宙三, 岩崎寛彌, 田中正俊, 中村俊男, 護 雅夫
山本達郎
- 第288回 開催日 平成5年 6月8日(火曜日)
出席者 北村 甫, 石井米雄, 河野六郎, 斯波義信
委任状 市古宙三, 岩崎寛彌, 田中正俊, 中村俊男, 護 雅夫
山本達郎
- 第289回 開催日 平成5年 12月7日(火曜日)
出席者 北村 甫, 石井米雄, 市古宙三, 木田 宏, 河野六郎, 斯波義信
林健太郎, 山本達郎, 東陽太郎
委任状 岩崎寛彌, 佐藤次高, 田中正俊, 中村俊男, 護 雅夫
山本達郎
- 第290回 開催日 平成6年 3月10日(臨時持回り)
出席者 北村 甫, 石井米雄, 市古宙三, 岩崎寛彌, 河野六郎, 木田 宏
佐藤次高, 斯波義信, 田中正俊, 中村俊男, 林健太郎, 護 雅夫
山本達郎, 東陽太郎

評 議 員 会

- 第132回 開催日 平成5年 6月8日(火曜日)
出席者 岡野 澄, 神田信夫, 亀井 孝, 関野 雄, 中嶋 敏
前田充明
委任状 井村裕夫, 田部文一郎, 鳥居泰彦, 中田乙一, 長谷川周重
日比野丈夫, 吉川弘之

ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前期 開催日 平成5年 5月25日（火曜日）
 出席者 北村 甫（委員長），市古宙三，尾崎 康，佐藤 長，竺沙雅章
 日比野丈夫
 議 題 1. 平成4年度財団法人東洋文庫事業報告について
 2. 平成5年度財団法人東洋文庫事業計画について
 3. その他
- 後期 開催日 平成5年 11月30日（火曜日）
 出席者 北村 甫（委員長），市古宙三，入矢義高，江上波夫，佐藤 長
 中嶋 敏，山本達郎
 議 題 1. 平成5年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
 2. 平成6年度財団法人東洋文庫事業計画案について

2. 人 事 報 告

i 役 員 異 動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
5.4.1	評 議 員	有 馬 朗 人	退 任	
〃	〃	吉 川 弘 之	就 任	
5.5.27	〃	石 川 忠 雄	退 任	
5.28	〃	鳥 居 泰 彦	就 任	
5.6.7	理 事	有 光 次 郎	退 任	
5.6.8	〃	木 田 宏	就 任	
〃	〃	東 陽太郎	〃	

ii 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
5.4.1	研究部長代理	永田雄三	委嘱	
〃	研究員(奨励)	西江清高	〃	
〃	〃	水野善文	〃	
6.1.30	研究部長代理	永田雄三	退任	
6.3.31	文庫長	渡辺兼庸	退職	
〃	研究員(奨励)	張士陽	退任	

Ⅳ 役 職 員 名 簿

平成 6 年 3 月 31 日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	北 村 甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
理 事	石 井 米 雄	上智大学教授 京都大学名誉教授
〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	木 田 宏	財団法人第二国立劇場運営財団理事長
〃	河 野 六 郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田 中 正 俊	神田外語大学教授 東京大学名誉教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林 健太郎	東京大学名誉教授
〃	護 雅 夫	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	東 陽太郎	財団法人東洋文庫総務部長
監 事	池 原 正 道	日本コムシス株式会社監査役
〃	白 石 元 良	三菱金曜会事務局長

役職名	氏名	現職
評議員	井村裕夫	京都大学長
〃	岡野澄	財団法人井上科学振興財団常務理事 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
〃	神田信夫	明治大学名誉教授
〃	小山宙丸	早稲田大学総長
〃	関野雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	鳥居泰彦	慶応義塾長
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社相談役
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社相談役
〃	日比野丈夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前田充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	吉川弘之	東京大学長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	北村 甫	財団法人東洋文庫理事長 麗澤大学教授
委員	市古 宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	入矢 義高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江上 波夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾崎 康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	佐藤 長	佛教大学教授 京都大学名誉教授
〃	斯波 義信	国際基督教大学教授
〃	竺 沙雅章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	長尾 雅人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西田 龍雄	学術情報センター教授
〃	日比野 丈夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	本田 實信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	山本 達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
J. ジェルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職 員

(平成6年3月31日現在)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	佐藤次高	東京大学教授
	研究員(兼任)	荒松雄	恵泉女学園大学教授
	〃	池田温	創価大学教授
	〃	池端雪浦	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	石井米雄	上智大学教授
	〃	石塚晴通	北海道大学教授
	〃	石橋崇雄	国土館大学助教授
	〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	上野英二	成城大学助教授
	〃	宇都木章	青山学院大学教授
	〃	梅村坦	中央大学教授
	〃	海野一隆	大阪大学名誉教授
	〃	小名康之	青山学院大学教授
	〃	太田幸男	東京学芸大学教授
	〃	越智重明	九州大学名誉教授
	〃	岡田英弘	東京外国語大学名誉教授
	〃	風間喜代三	法政大学教授
	〃	片山章雄	東海大学専任講師
	〃	加藤直人	日本大学助教授
	〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
	〃	川崎信定	筑波大学教授
	〃	神田信夫	明治大学名誉教授
	〃	菊池英夫	中央大学教授
	〃	北村甫	麗澤大学教授
	〃	草野靖	福岡大学教授
	〃	小松久男	東京外国語大学助教授
	〃	河野六郎	東京教育大学名誉教授
〃	後藤明	東京大学東洋文化研究所教授	
〃	後藤均平	立教大学名誉教授	
〃	佐伯富	京都大学名誉教授	
〃	佐竹昭広	成城大学教授	
〃	酒井憲二	調布学園女子短期大学長	

部 名	職 名	氏 名	現 職
	研究員(兼任)	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
	〃	蒨 勇 造	東京大学助教授
	〃	清 水 宏 祐	東京外国語大学教授
	〃	杉 山 正 明	京都大学助教授
	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
	〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
	〃	田 中 時 彦	東海大学教授
	〃	田 中 正 俊	神田外語大学教授
	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	武 田 幸 男	東京大学教授
	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
	〃	千 葉 熈	桐朋学園理事長
	〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授
	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	〃	朽 尾 武	成城大学教授
	〃	土 肥 義 和	國学院大学教授
	〃	鳥 海 靖	東京大学教授
	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
	〃	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	八尾師 誠	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
	〃	原 實	東京大学名誉教授
	〃	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
	〃	星 實千代	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所共同研究員
	〃	本 田 實 信	名古屋商科大学教授
	〃	松 濤 誠 達	大正大学教授
	〃	松 村 潤	日本大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
	研究員(兼任)	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
	〃	三根谷 徹	東京大学名誉教授
	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
	〃	宮 崎 修 多	成城大学専任講師
	〃	護 雅 夫	東京大学名誉教授
	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	〃	柳 田 節 子	元学習院大学教授
	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
	〃	山 口 謡 司	ケンブリッジ大学助手
	〃	山 崎 元 一	國學院大学教授
	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
	〃	山 本 達 郎	東京大学名誉教授
	〃	和 田 博 徳	創価大学教授
	〃	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ研究所 研究員
	〃	渡 辺 紘 良	獨協医科大学教授
	研究員(専任)	本 庄 比 佐 子	
	〃	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	斯 波 義 信
	東洋文庫長	渡 辺 兼 庸*
	主 査	小 山 勲*, 竹之内 信 子*
	副 主 査	池 田 直 人*, 志 茂 碩 敏*, 広 瀬 洋 子*
	事務主任	小 林 輝 男*, 西 蘭 一 男*
司 書	桜 井 徹, 中善寺 慎, 蓮 沼 龍 子	
総務部	部 長	東 陽 太郎
	課 長	光 田 憲 雄
	会 計 係 長	金 子 祐 子
	参 事	中 沢 元 幸, 橘 伸 子, 小 松 眞 理
		吉 田 男 佐 武, 広 木 節 巳, 長谷川 茂 広

(*印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	青柳 かおる, 石川 重雄, 泉 千尋, 宇山 智彦 王 瑞来, 黒岩 高, 高野 太輔, 清水 和裕 高橋 哲, 武石 慎一, 田中 公明, 外川 和雅 直井 弘洋, 中林 豊, 長谷川 誠夫, 福原 良隆 ブドレス・リリアン, 辺 見由紀子, 帆刈 浩之 松戸 清裕, 安田 震一, 山尾 京子, 山口 洋 李 培 徳
図書部	石川 むつみ, 岩城 志津香, 岩見 隆, 岡田 泰介 金沢 悦男, 清水 一枝, 沈 潔, 関 喜房 高木 雅弘, 高田 まゆみ, 竹越 孝, 荷見 守義 古田 幸三, 前迫 勝明, ヤマンラール・水野 美奈子 山口 乾
総務部	豊田 典子

V 財団法人東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、研究情報の交換、研究者の交流の促進、及び研究成果の普及を図る。

1. ユネスコ協力活動

【概要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

【事業内容】

(1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる同シリーズに対し日本の機関として編集に協力するため、梅村坦中央大学教授（専門委員）を中心に、編集協力委員会の編成について協議した。

(2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 1992-93年に「アジア重要文献覆刻叢書の編集・出版」事業をもって参加した（下記3-1-(1)を参照）。

ユネスコ本部の参加事業計画 1994-95年に「Asian Research Trendsの編集・出版」事業及び「アジア重要文献覆刻叢書の編集・出版」事業をもって参加の申請を行なった。

2. 学術情報活動 —アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的か

つ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関及び研究者の間の交流・協力を促進する。

2—1. Asian Research Trends の編集・出版

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

専門委員：池端雪浦，梅村 坦，中里成章，濱下武志，山内弘一，山崎元一。

【事業内容】

英文の年刊誌“Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review”の編集・出版を行なった。本年度はNo. 4 (1994) を刊行し、アジア諸国におけるアジア研究・自国研究、日本におけるアジア研究の動向を中心に掲載し、あわせて下記「国外研究情報の収集」(2-2-(2))において訪問した関係研究機関の調査報告、国際学会会議の報告等を掲載した。A5判変型，vi + 200p.

また、同誌No. 1の増刷を行なった。

編集委員会を3月15日に開催し、次年度以降の出版計画について検討した。

2—2. 国内外研究情報の収集

【概要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学术交流のための基礎資料とする。

【事業内容】

(1) 国内研究情報の収集

(1)-A. 国内研究機関との情報交換

主要な研究機関との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

(1)-B. 東洋学ネットワークの形成

文部省科学研究費事業(総合A)「関連研究組織のネットワーク形成に関する調査研究：東洋学ワーキンググループ」(座長：石井米雄上智大学教授)に協力して、同事業を推進した。1月19日に専門家会議を開催し、戸川芳郎東京学芸大学教授(研究協力者)による「漢字資料総合学術センター(仮称)の設置について」の報告が行なわれた。

(2) 国外研究情報の収集

(2)一A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象である東北アジア地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を行なった。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

中華人民共和国： 9月10日－9月23日

大井 剛 (センター調査外事室長)

藤井和夫 (研究協力者, 日野市ふるさと博物館学芸係長)

橋本秀美 (研究協力者, 東京大学大学院生)

大韓民国：大井 剛 (センター調査外事室長) 2月19日－3月3日

藤井和夫 (研究協力者, 日野市教育委員会社会教育課文化財係長)

(2)一B. 講演会の開催

来日中の外国人研究者等を招いて講演会を開催し、諸外国の研究情報を得、国内研究者との交流を図った。

7月6日(火) 13時30分-15時30分

講師：王 承 礼 中国吉林省社会科学院教授, 吉林省考古学会理事長

主 題：「渤海の歴史と文化—中国東北の考古・歴史研究の成果—」

会 場：東洋文庫講演室 出席者：13名

(2)一C. 外国人研究者, 各種専門家に対する便宜供与

本年度2-2-(2)-B及び2-2-(3)に記載の外国人研究者以外に、センターを訪れ、センターが情報等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記の通りである。

Lombard, Denys Directeur, École Française d'Extrême-Orient,
Paris, France

Souyri, Pierre-François Directeur des Etudes, EFEO

Wongduen Narasuj (Ms) Instructor, History Dept., Faculty of Social Sci-
ences, Srinakharinwirot University, Bangkok,
Thailand

成 中 英 Professor (Chinese Philosophy), University of
Hawaii, Honolulu, USA

Král, Oldřich Professor, Dept. of East Asian Studies; Center
for Comparative Studies, Univerzita Karlova
(Charles University), Praha, Czech Rep.

陳 繼 東 東京大学大学院生 (印度哲学)

Umesh Pawankar	Research Director, Division of Cultural Development Studies and Activities (CDSA), Pune, India
S.K. Verma	在日本インド大使館参事官
Neera Deshpande (Ms)	在日本インド大使館三等書記官
李胤錫	暁星女子大学校国語国文学科副教授, 慶尚北道慶山郡, 韓国
彭定安	東北大学文法学院院長・教授, 遼寧省瀋陽市, 中国
Lapian, A.B.	Senior Researcher, Centre for Social and Cultural Studies, Indonesian Institute of Sciences (LIPI), Jakarta, Indonesia
Shahnaz Arshad (Ms)	Architect, Naqshgar: Architecture and Design, Rawalpindi, Pakistan
Asad Majeed Khan	在日本パキスタン大使館三等書記官
Sumalee Suvansang (Ms)	Acting Director, Ayutthaya Historical Study Centre, Ayutthaya, Thailand
M.L. Panadda Diskul	Chief, Foreign Affairs Division, Ministry of Interior, Bangkok, Thailand
呉星	世宗大学校人文大学歴史学科副教授, ソウル, 韓国
緒俊杰	中国蔵学研究中心歴史宗教研究所副研究員, 北京, 中国
Nai Pan Hla	元東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所客員研究員; 元ビルマ文化省考古局刻文部長

(2)—D フランス国立極東学院東京支部(仮称)との協力

次年度, 財団法人東洋文庫の施設内に設置される予定であるフランス国立極東学院東京支部(仮称)との協力関係を確立するため, 相互の交流を推進した。

(3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として来日した専門家を下記の通り受け入れた。

Mattani Mojdara Rutnin (Ms) Professor, Drama Dept., Faculty of Fine and Applied Arts, Thammasat University, Bangkok, Thailand.

平成5年10月1日—10月31日 日本学術振興会の招聘による。「現代日タイ関係史」の研究のため、京都大学東南アジア研究センター、国際日本文化研究センター等を訪問調査した。

学術交流を目的として来日中の専門家を下記の通り国内において招聘した。

徐光輝 中国、吉林大学考古学系講師。

平成6年2月8日—2月14日 関西学院大学の客員研究員として来日。東京大学文学部朝鮮文化研究室、早稲田大学文学部考古学研究室、國學院大学文学部史学科研究室との協力のもとに招聘し、各大学において講演会を開催するとともに、国立歴史民俗博物館等への訪問を行なった。

徐光輝 同上。

平成6年3月9日—3月19日 有限会社多摩アセット（下記4-3参照）の援助のもとに招聘した。

2—3. 文献目録の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」（2-2）において収集した学術情報を bibliography として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 「中国水利史研究日本語文献目録」の編集・出版

“Japanese Studies on the History of Water Control in China: A Selected Bibliography,” compiled by Mark Elvin, Hiroaki Nishioka, Keiko Tamura, and Joan Kwek. Canberra: The Institute of Advanced Studies, Australian National University, and Tokyo: CEACS, 1994.

同書をオーストラリア国立大学高等研究所と共同出版した。本書は、マーク・エルヴィン、西岡弘晃、田村恵子、ジョアン・クウェック共編、日本の中国水利史研究会の編集協力により、同研究所において編集され、オーストラリアで制作された。B5判変型、xvi+240p.

(2) 「漢籍在日総合目録」の編集

同書の編集を進めるため、国内所在の文庫・図書館の調査を行なった。また、5月28日に専門家による会議を開催し、日本における漢籍蒐集の現状の調査について検討した。

研究協力者 戸川芳郎、藤本幸夫。

(3) 「明治初期翻訳文献目録」の編集

同書の編集のための予備調査を行なった。

(4) 「ベトナム書誌」の編集

同書の校閲を終え、編集を進めた。校閲は、川本邦衛慶應義塾大学教授による。

2-4. Directory の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)において収集した学術情報を directory として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 国内研究者名簿の作成

研究団体名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成、及び個人アンケート調査を通じて、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。情報はすべてコンピュータ入力し、データベース化している。本年度は、特に「日本における印度学仏教学研究名簿」の編集、及び「日本におけるアジア歴史研究者名簿」の改訂を行なった。

(2) 海外研究機関一覧の編集

韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、インドに所在するアジア関係研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

(3) 「日本におけるアジア研究機関一覧」の編集

国内研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

3. 重要文献の保存・普及活動 —アジア重要文化財(文献)の保存・普及—

【概要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

3-1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

専門委員：武田幸男、立川武蔵、永田雄三、御牧克己、湯山 明。

【事業内容】

専門委員会を4月12日及び8月9日に開催し、本年度及び次年度以降の出版計画について検討した。

(1) 「パンチャクラマ」(「五次第」)の編集・出版

“Pañcakrama: Sanskrit and Tibetan texts critically edited with verse index and facsimile edition of the Sanskrit manuscripts,” by Katsumi Mimaki and Tōru Tomabechi. <Bibliotheca Codicum Asiaticorum 8> 1994.

「アジア重要文献覆刻叢書」第8巻として、同書の編集・出版を行なった。本書の編者は、御牧克己京都大学教授(専門委員)、苫米地等流氏である。本書の出版に際し、ユネスコ本部の参加事業計画1992-93年に参加し、その援助を受けた。

A4判横綴, xx+80+104p.

(2) 「デーヴィーマーハートミヤ絵画集」の編集

同書の編集を行なった。

3—2. アジア史料の保存・普及

【概要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存するとともに、広く普及を図る。

【事業内容】

(1) 「アジア史料叢刊」の編集・出版

同シリーズの一点として「十九世紀対外関係ベトナム史料」の原稿を入手し、その編集を行なった。本書は、漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈とを付したものである。

(2) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

4. 研究普及活動

4—1. 研究成果の英文出版

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する研究の成果を英文で出版し、関係の研究者に周知させる。

【事業内容】

(1) 「東南アジア史紀年総覧」の編集

同書の編集を行なった。

4—2. 語学講習会

【概要】 アジア諸言語の講習会を、初学者を対象として短期集中方式により実施し、学習の機会に乏しい言語の教育を行なうとともに、語学教授法の発達に寄与する。

【事業内容】

(1) 第33回語学講習会「ペルシア語講習会：現代イラン語初級講座」の開催
名古屋大学大学院国際開発研究科及び同大学文学部、言語文化部の要請に応え、この三者との共催により下記の通り実施した。名古屋大学大学院の履修単位に認定されるとともに、大学の社会人教育の一環として大学と地域との交流にも貢献した。

期 間：7月26日(月)―8月20日(金) 9時30分-12時30分 (土・日曜日を除く)
8月23日(月)―8月27日(金) 9時30分-16時30分

共 催：名古屋大学大学院国際開発研究科
名古屋大学文学部
名古屋大学言語文化部

会 場：名古屋大学豊田講堂会議室、文学部講義室

講 師：野田恵剛 中部大学国際関係学部助教授
モハンマド・バーフギー

講演会：講習の一部として講演会「現代イランの社会と文化」(講師：アリレザ・ラジャイ)を8月24日に開催した。

修了者：11名

備 考：名古屋大学大学院国際開発研究科は、修了者のうち同大学院在籍者2名に対し履修単位を認定した。

4—3. 普及活動

【概要】 国内外の研究者・研究機関の活動を促進する情報を提供し、またセンターを事務局とすることが効果的と認められる事業を企画・運営する。

【事業内容】

センターの活動についての問合せに応じ、また出版物の寄贈・交換等を行なった。「ニューズレター」(和文)の編集を行なった。

有限会社多摩アセット(東京都町田市)の助成により「出版物の買上げ頒布事業」が行なわれ、Asian Research Trends No. 3について韓国をはじめとするアジア諸国の研究機関・研究者に対し合計100部を送付した。

5. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前 期 開 催 日 平成 5 年 5 月 25 日 (火) 13時30分-15時
場 所 東洋文庫 3 階会議室
出席委員 5 名 委任状12名
報 告 1. 参与の委嘱について
2. 運営委員の委嘱について
議 題 1. 顧問の推薦について
2. 平成 4 年度事業報告及び決算報告について
3. 平成 5 年度事業計画及び予算案について

後 期 開 催 日 平成 5 年 11 月 30 日 (火) 13時30分-15時
場 所 東洋文庫 3 階会議室
出席委員 5 名 委任状10名
報 告 1. 顧問の委嘱について
2. 運営委員の委嘱について
3. その他
運営委員中根千枝氏の文化功労者の顕彰
議 題 1. 平成 5 年度事業中間報告及び収支状況報告について
2. 平成 6 年度事業計画案及び予算案について

顧問会議

開 催 日 平成 5 年 5 月 25 日 (火) 13時30分-15時
場 所 東洋文庫 3 階会議室
出席顧問 3 名 委任状 4 名
報 告 1. 参与の委嘱について
2. 運営委員の委嘱について
議 題 1. 顧問の推薦について
2. 平成 4 年度事業報告及び決算報告について
3. 平成 5 年度事業計画及び予算案について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	現職
5年 4. 1	運営委員	小野 正雄	就任	東京大学史料編さん所所長
〃	〃	阪上 孝	〃	京都大学人文科学研究所所長
〃	〃	佐藤 國雄	〃	文部省大臣官房審議官
6.30	顧問	長谷川善一	退任	文部省学術国際局長
〃	運営委員	佐藤 國雄	〃	文部省大臣官房審議官
7. 1	顧問	佐藤 禎一	就任	文部省学術国際局長
〃	運営委員	雨宮 忠	〃	文部省大臣官房審議官
〃	顧問	前田 充明	再任	財団法人国際学友会理事
〃	運営委員	佐々木高明	〃	国立民族学博物館教授・館長
〃	〃	中根 千枝	〃	財団法人民族学振興会理事長
9. 1	運営委員	矢野 暢	退任	京都大学東南アジア研究センター 所長
9.11	顧問	尾高 邦雄	逝去	
10. 6	運営委員	坪内 良博	就任	京都大学東南アジア研究センター 所長
11. 1	〃	斯波 義信	再任	国際基督教大学教養学部教授
6年 1. 1	〃	池端 雪浦	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
〃	〃	辛島 昇	〃	東京大学文学部教授
〃	〃	佐藤 次高	〃	東京大学文学部教授
2. 1	〃	竺沙 雅章	〃	大谷大学文学部教授
3.31	〃	松谷 敏雄	退任	東京大学東洋文化研究所所長

C. 顕 彰

年月日	役職名	氏名	区分	内 容
5年 11. 3	運営委員	中根 千枝	選定	文化功労者

D. 会計報告

平成5年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成6年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額 (千円)	科 目	金額 (千円)
事 業 費	22,232	国 庫 補 助 金	80,000
ユネスコ協力活動費	265	財 産 収 入	6
学術情報活動費	12,869	雑 収 入	3,774
重要文献の保存・普及活動費	5,329		
研究普及活動費	3,769		
経 常 費	61,548		
人 件 費	59,115		
事 務 費	2,433		
計	83,780	計	83,780

6. 役職員名簿

平成6年3月31日現在の役職員は以下のとおりである。

[注] Eはex officio(官職指定)。

A. 役員

役職名	氏名		現職
所長	石井米雄		上智大学アジア文化研究所教授、京都大学名誉教授
顧問	浅尾新一郎	E	国際交流基金理事
	岡野澄		財団法人井上科学振興財団常務理事、東京工業専門学校名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
	佐藤禎一	E	文部省学術国際局長
	西島安則	E	日本ユネスコ国内委員会会長
	前田充明		財団法人国際学友会理事、城西大学名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
	山本達郎		日本学士院会員、東京大学名誉教授、財団法人東洋文庫理事
参与	織田武雄		京都大学名誉教授
	田村實造		京都大学名誉教授
	中村元		日本学士院会員、東京大学名誉教授、東方学院長
	長尾雅人		日本学士院会員、京都大学名誉教授
	服部四郎		日本学士院会員、京都大学名誉教授
	丸山眞男		日本学士院会員、東京大学名誉教授

役職名	氏名		現職
運営委員	雨宮 忠	E	文部省大臣官房審議官
	池端 雪浦		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	小野 正雄	E	東京大学史料編さん所所長
	片倉 邦雄	E	国際交流基金専務理事
	上岡 弘二	E	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
	辛島 昇		東京大学文学部教授
	河野 靖		上智大学アジア文化研究所客員研究員
	阪上 孝	E	京都大学人文科学研究所所長
	佐々木 高明		国立民族学博物館教授・館長
	佐藤 次高		東京大学文学部教授，財団法人東洋文庫理事
	斯波 義信		国際基督教大学教養学部教授，財団法人東洋文庫理事
	竺沙 雅章		大谷大学文学部教授，京都大学名誉教授
	坪内 良博	E	京都大学東南アジア研究センター所長
	中根 千枝		財団法人民族学振興会理事長，東京大学名誉教授
	松谷 敏雄	E	東京大学東洋文化研究所所長
	三角 哲生	E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
宮本 吉範	E	文部省大臣官房審議官	
山崎 元一		國學院大学文学部教授	
山田 勝久	E	アジア経済研究所所長	

B. 職 員

室 名	職 名	氏 名
調査外事室	室 長 研 究 員	大 井 剛 福 田 洋 一 近 藤 敦 子
普 及 室	室 長 研 究 員 参 事	外 池 明 江 設 楽 靖 子 坂 本 葉 子
庶務会計室	室 長 参 事	飯 田 隆 子 小 林 和 弘
外 国 人 専 門 員		John Wisnom

C. 臨時職員

平成5年4月1日から平成6年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

秋葉 淳, 飯田巳貴, 大瀧紀子, 粕谷 元, 黒岩 高, 古勝隆一, 後藤裕加子,
 島かおる, 嶋田英晴, 島谷泰子, 清水敏江, 下山伴子, 末広朗子, 高島まゆみ,
 竹野幸子, 徳増克己, 中原由美, 西田暢子, 橋本秀美, 前嶋敦子, 前田弘毅,
 三谷千恵, 森島 聡, 森本一夫, 横井桃子, 渡部良子

財団
法人 東洋文庫年報 平成5年度

平成6年9月30日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

北村 甫

印刷者 (株) 東京プレス

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

